

2008(平成20)年紙・板紙内需試算報告

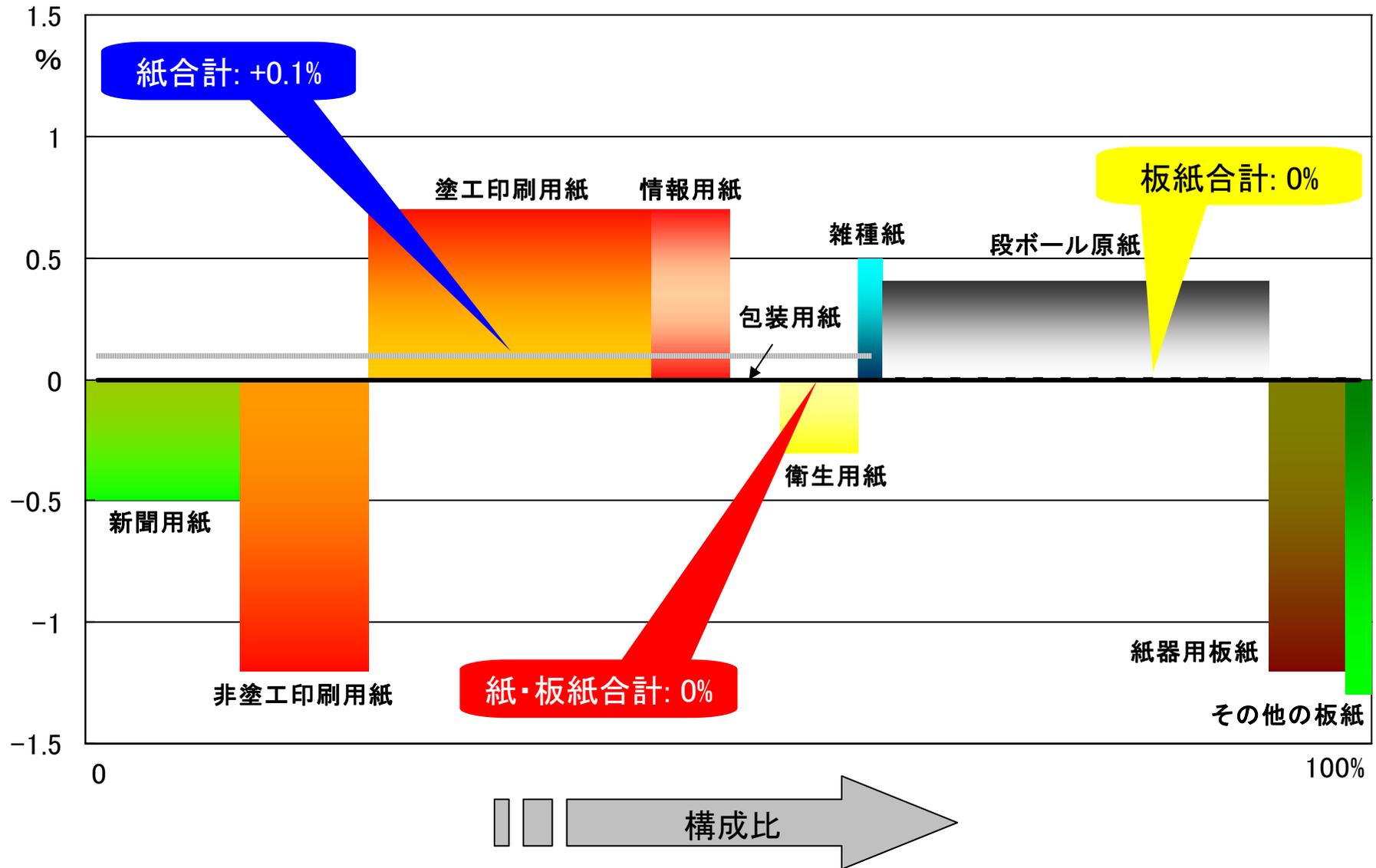
平成20年1月21日

日本製紙連合会

I. 内 容

- I. 2008(平成20)年 紙・板紙内需試算
- II. 紙・板紙内需の低迷要因
- III. 2008(平成20)年 品種別内需試算
- IV. 2007年紙・板紙内需実績見込み
- V. 経済と紙・板紙内需の動き
- VI. 景気拡大期における紙・板紙内需の動き
- VII. 参考

I. 2008(平成20)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



② 2008(平成20)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%)

	品 種	2000年実績		2001年実績		2002年実績		2003年実績		2004年実績		2005年実績		2006年実績		2007年実績(見込み)		2008年見通し	
紙	新聞用紙	3,699	2.8	3,736	1.0	3,702	▲ 0.9	3,677	▲ 0.7	3,755	2.1	3,759	0.1	3,764	0.1	3,715	▲ 1.3	3,695	▲ 0.5
	非塗工印刷用紙	3,510	0.7	3,416	▲ 2.7	3,271	▲ 4.2	3,195	▲ 2.3	3,194	▲ 0.0	3,154	▲ 1.3	3,102	▲ 1.6	3,063	▲ 1.3	3,027	▲ 1.2
	塗工印刷用紙	6,462	9.0	6,376	▲ 1.3	6,314	▲ 1.0	6,538	3.5	6,807	4.1	6,876	1.0	6,954	1.1	6,826	▲ 1.8	6,877	0.7
	情報用紙	1,891	0.6	1,867	▲ 1.3	1,888	1.1	1,937	2.6	1,981	2.3	1,977	▲ 0.2	1,992	0.8	2,006	0.7	2,021	0.7
	印刷・情報用紙計	11,864	5.0	11,659	▲ 1.7	11,473	▲ 1.6	11,670	1.7	11,982	2.7	12,006	0.2	12,048	0.3	11,896	▲ 1.3	11,926	0.3
	未晒包装紙	658	0.6	622	▲ 5.5	595	▲ 4.3	599	0.7	603	0.7	598	▲ 0.8	604	1.0	606	0.3	603	▲ 0.5
	晒包装紙	383	4.4	367	▲ 4.2	359	▲ 2.2	348	▲ 3.1	352	1.1	354	0.6	362	2.3	367	1.4	369	0.5
	包装用紙計	1,041	2.0	989	▲ 5.0	954	▲ 3.5	947	▲ 0.7	955	0.8	952	▲ 0.3	966	1.5	973	0.7	973	0.0
	衛生用紙	1,720	1.0	1,740	1.2	1,705	▲ 2.0	1,710	0.3	1,739	1.7	1,796	3.3	1,821	1.4	1,810	▲ 0.6	1,805	▲ 0.3
	雑種紙	924	3.5	850	▲ 8.0	877	3.2	880	0.3	894	1.6	826	▲ 7.6	852	3.1	875	2.7	879	0.5
	紙 計	19,247	4.0	18,973	▲ 1.4	18,711	▲ 1.4	18,885	0.9	19,324	2.3	19,339	0.1	19,450	0.6	19,269	▲ 0.9	19,279	0.1
板	ライナー	5,719	2.8	5,582	▲ 2.4	5,538	▲ 0.8	5,543	0.1	5,616	1.3	5,616	0.0	5,621	0.1	5,608	▲ 0.2	5,625	0.3
	中芯原紙	3,673	3.2	3,600	▲ 2.0	3,607	0.2	3,647	1.1	3,694	1.3	3,726	0.9	3,761	0.9	3,771	0.3	3,791	0.5
	段ボール原紙計	9,392	2.9	9,182	▲ 2.2	9,144	▲ 0.4	9,190	0.5	9,310	1.3	9,342	0.3	9,381	0.4	9,379	▲ 0.0	9,416	0.4
	白板紙	2,072	2.8	2,010	▲ 3.0	2,025	0.7	2,029	0.2	2,037	0.4	2,029	▲ 0.4	2,031	0.1	2,006	▲ 1.2	1,982	▲ 1.2
	黄チップ・色板	243	0.8	223	▲ 8.2	209	▲ 6.3	210	0.5	209	▲ 0.5	206	▲ 1.4	205	▲ 0.5	193	▲ 5.9	190	▲ 1.6
	紙器用板紙計	2,314	2.6	2,233	▲ 3.5	2,235	0.1	2,239	0.2	2,246	0.3	2,236	▲ 0.4	2,237	0.0	2,198	▲ 1.7	2,172	▲ 1.2
	その他の板紙	1,006	1.8	946	▲ 6.0	878	▲ 7.2	881	0.3	880	▲ 0.1	858	▲ 2.5	867	1.0	867	0.0	856	▲ 1.3
板 紙 計	12,713	2.8	12,361	▲ 2.8	12,257	▲ 0.8	12,309	0.4	12,435	1.0	12,435	0.0	12,485	0.4	12,445	▲ 0.3	12,444	▲ 0.0	
紙・板紙 計	31,960	3.5	31,335	▲ 2.0	30,967	▲ 1.2	31,194	0.7	31,759	1.8	31,774	0.0	31,935	0.5	31,714	▲ 0.7	31,723	0.0	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、積み上げた数量の計と合わない場合がある。

③ 2008(平成20)年品種別内需増減要因

品種	プラス	マイナス
共通	景気回復の持続、北京五輪特需、閏年	予想される紙・板紙価格上昇を受けての需要家の使用節減等、改正建築基準法をめぐる混乱、自動車の内需低迷
新聞用紙	北京五輪特需、閏年、軽量化一服	発行部数の減少、広告出稿の低迷による頁数の減少
非塗工印刷用紙	上級印刷用紙はその汎用性やチラシ、目論見書・説明書向けの底堅さから伸び期待	出版業界の不振が中下級印刷用紙等に及ぼす影響、他品種(塗工印刷用紙、PPC用紙等)へのシフト、フリーペーパーの一巡
塗工印刷用紙	販促用商業印刷、他品種(非塗工印刷用紙等)からのシフト、北京五輪特需、新マシン稼働	低米坪品のシェア拡大
情報用紙	PPC用紙はその汎用性、他の品種からのシフト等から伸び期待。感熱紙の輸出好調で原紙需要も増加	PPC用紙を除く情報用紙では構造的な需要減が継続
包装用紙	晒包装用紙は手提げ袋、加工用途全般向けが堅調	未晒包装用紙の重袋用両更クラフト紙は合成樹脂向けを除き低調。軽包装用でも省包装、白物等への移行進展
衛生用紙	花粉飛散(ティッシュ)、業務用タオル用紙堅調	製品価格の値上げによる節約志向
雑種紙	電気絶縁紙はデジタル家電好調等を受け伸び期待	建材用原紙は改正建築基準法改正をめぐる混乱から減少
段ボール原紙	飲料等加工食品、薄型テレビ等電気機械器具向け等増加	青果物、陶磁器・ガラス・雑貨等は向け等は低調
紙器用板紙	菓子を除く食品向け、医薬品向け等は増加	値上げを受けての省包装・軟包装等への転換
その他の板紙	塗工紙新マシン稼働に伴うワンプ需要増	改正建築基準法をめぐる混乱による建材原紙の不振

北京五輪に関連した特需について

世界的なスポーツイベントの開催は、観戦するためのテレビやDVDレコーダー等デジタル家電、観戦ツアー、新聞、関連雑誌の発行などにより、家計の消費行動に影響を及ぼすことが見込まれる。恩恵を受ける産業は、デジタル家電業界、家電量販店、電子部品関連業界、出版印刷関連業界、スポーツ関連業界、メディアや広告代理店等広範囲に及ぶ。なお、今回は開催地が日本に近いことから、観戦ツアーに関連する旅行業界も大きな特需が期待される。

Ⅱ. 紙・板紙内需の低迷要因(国内市場における環境変化)について

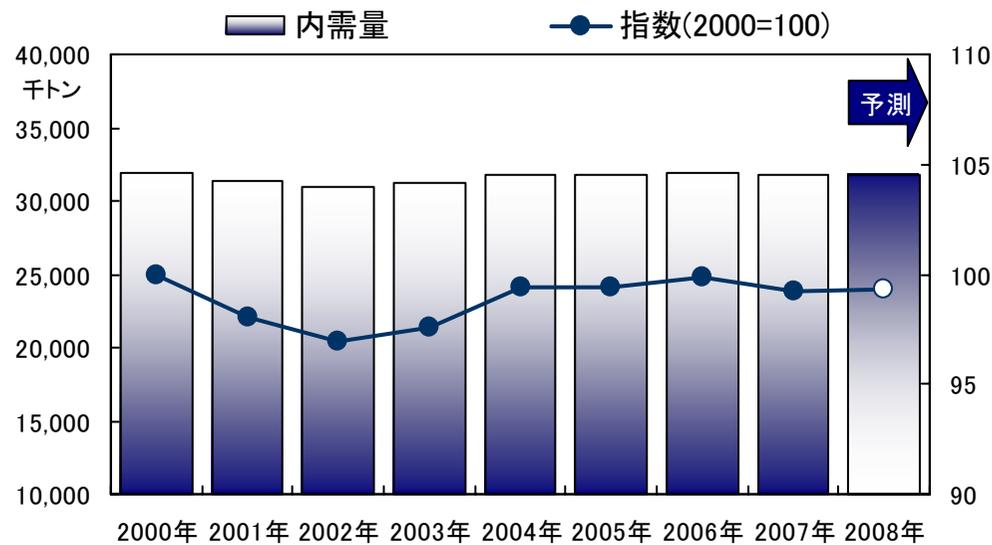
社会経済構造の変化を背景に国内市場は
頭打ちの状態(2000年以降横ばい)

情報化の進展による電子媒体の普及(広告
媒体の変化、活字離れ)

3R等省資源・省包装化、他素材の包装物等
代替品の普及

需要家各社(ユーザー)のコスト削減強化
(薄物化:低米坪化の進行)

Ⅲ. 2008(平成20)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計



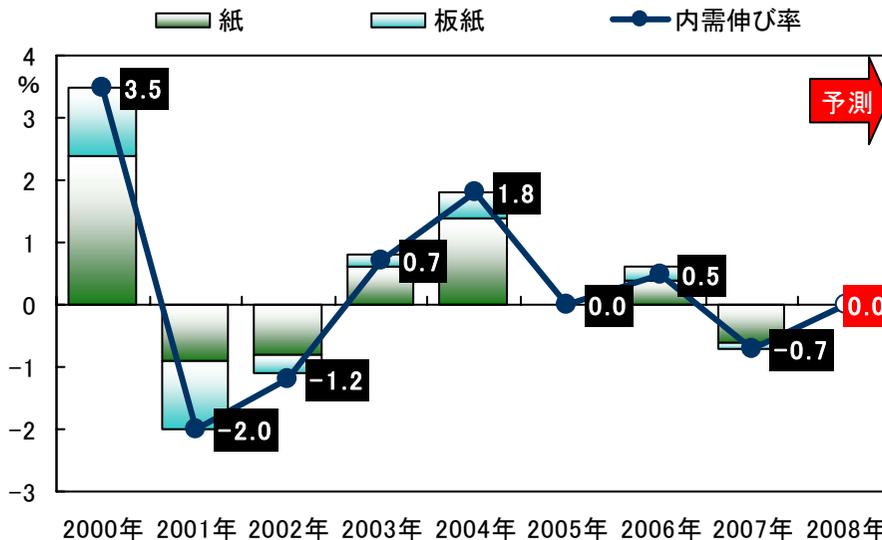
「近年の動向：特徴的な動き」

★紙・板紙の内需は2000年をピークにほとんど横ばいである。停滞感は強いものの、その6割を占める紙分野を中心に、2003年よりプラスを維持してきたが、昨年は紙の減少により5年ぶりのマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は微増も、輸入は減少である(32頁参照)。

「2008年予測：試算結果等」

☆景気は、米国経済の減速や原油価格の高止まり等懸念材料はあるが、引き続き企業部門は底堅く、家計部門も緩やかな改善が見込まれており、民間需要を中心とした景気回復が持続する見込みである。

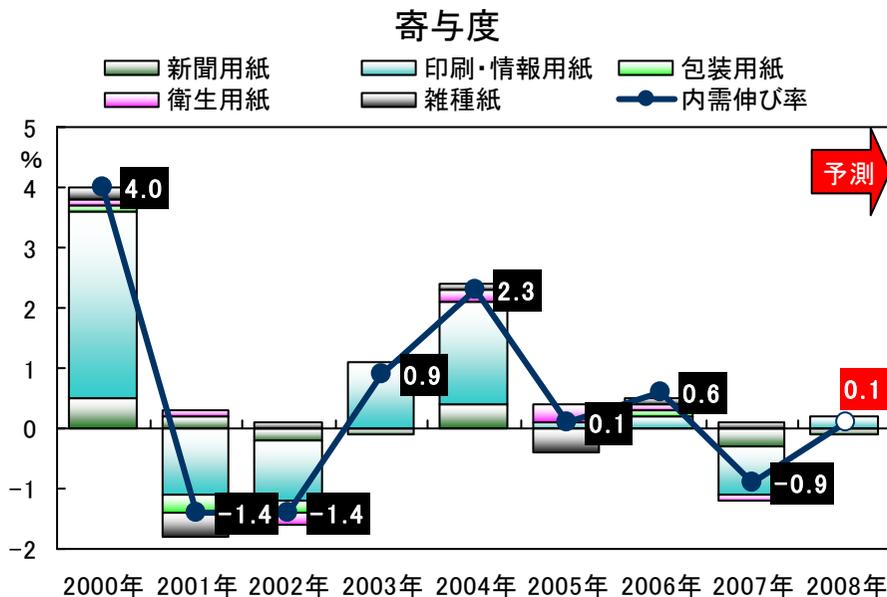
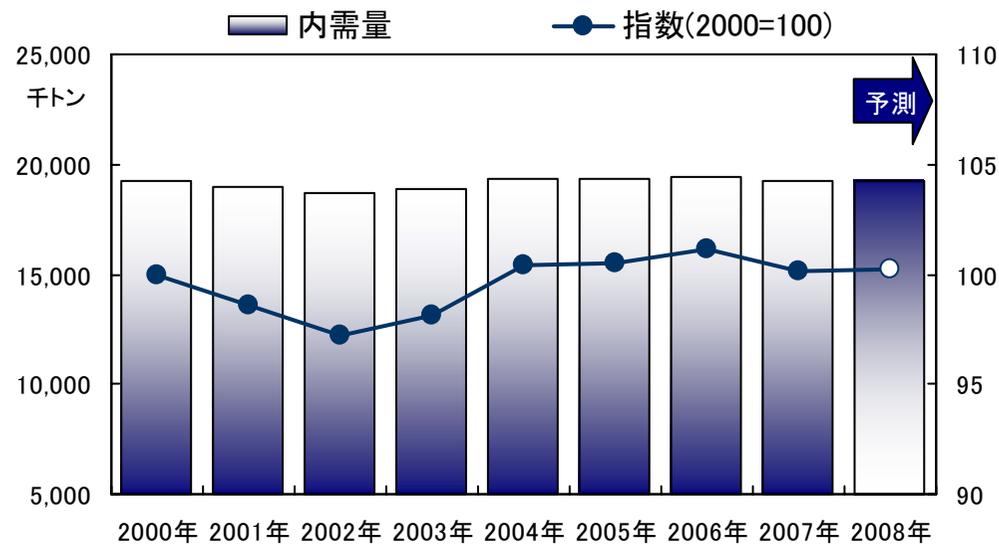
寄与度



☆品種別試算を積み上げた結果、紙・板紙の内需は3,172万トン、前年に対して0.0%、0.9万トンの増加である。基調に変化なく、ほとんど横ばいの予測である。過去最高の2000年に対しては0.7%、24万トンの減少となる。

☆紙・板紙別寄与度は、紙が0.0、板紙が-0.0であり、ほぼイーブンである。

(2) 紙合計



「近年の動向: 特徴的な動き」

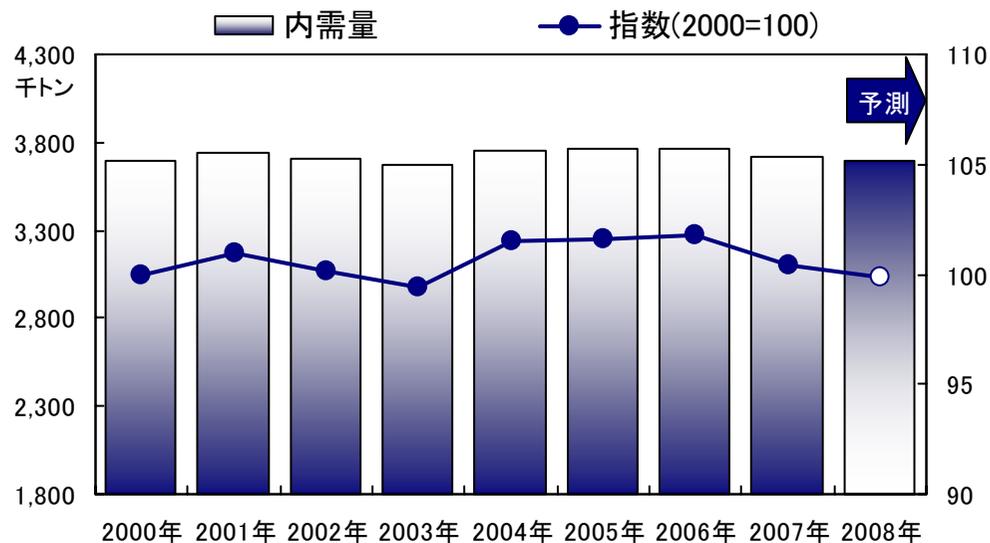
★紙の内需は、2000年以降ほとんど横ばいであるが、2004年より微増ながら過去最高を3年連続で更新している。昨年はこれまでの牽引役である印刷・情報用紙を中心に、新聞用紙、衛生用紙の減少により5年ぶりのマイナスとなった。サプライ別には、輸入が減少(3年連続)する一方、国内出荷はプラス(4年連続)を維持している(32頁参照)。

「2008年予測: 試算結果等」

☆紙の品種別試算を積み上げた結果、紙の内需は1,928万トン、前年に対して0.1%、1万トンの増加である。基調に変化なく、ほとんど横ばいの予測である。過去最高の2006年に対しては0.9%、17万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、新聞用紙が-0.1、印刷・情報用紙が0.2、その他(包装用紙、衛生用紙等)は0.0であり、近年の傾向に概ね変化なく、印刷・情報用紙が紙の内需を牽引する。

(3) 新聞用紙



「近年の動向:特徴的な動き」

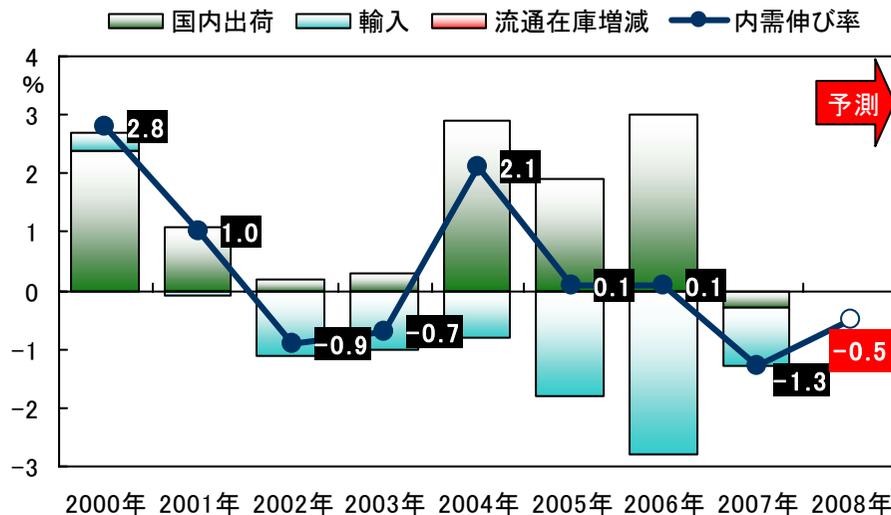
★近年、新聞用紙の内需はほぼ横ばいの頭打ちであるが、昨年は前年の反動(トリノ五輪、サッカーW杯の開催)もあり1%を上回る減少となった。しかし、内需の減少はこうした特需反動によるものだけでなく、発行部数の減少や広告出稿の低迷が影響している。インターネットの普及による読者離れや広告主の新聞広告から他媒体へのシフト等である。

「2008年予測:試算結果等」

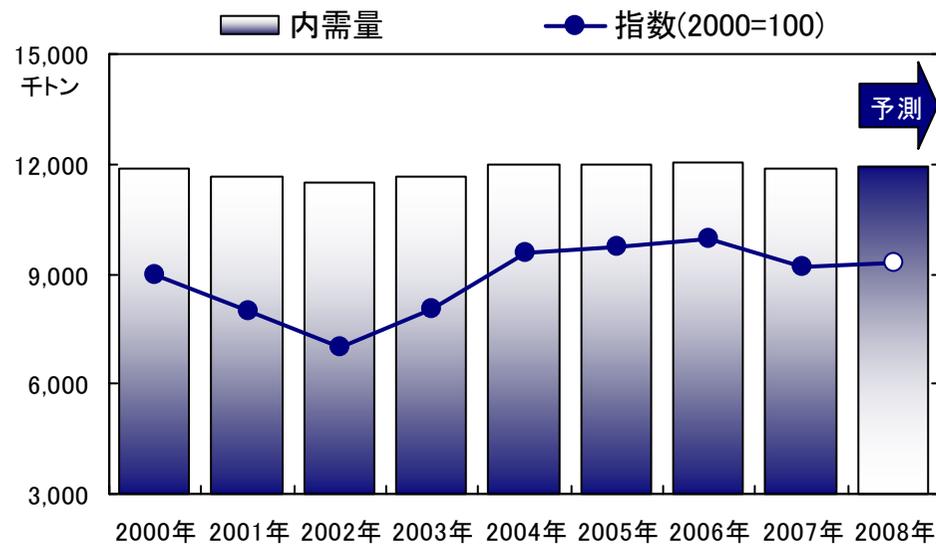
☆新聞用紙の内需は、発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は、インターネットの普及・拡大によるPC、携帯端末等情報収集媒体の多様化から減少傾向が継続。頁数は広告出稿の低迷により減少。広告主は、宣伝活動において、より効果的な販売促進ツールへの選別を進めており、新聞広告も少なからず影響を受けている。本年は閏年であり、北京五輪開催といったプラス要因はあるものの、発行部数、広告出稿の減少がそれ以上に大きく、内需は減少を見込む。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は0.5%減と予測した。

寄与度



(4) 印刷・情報用紙

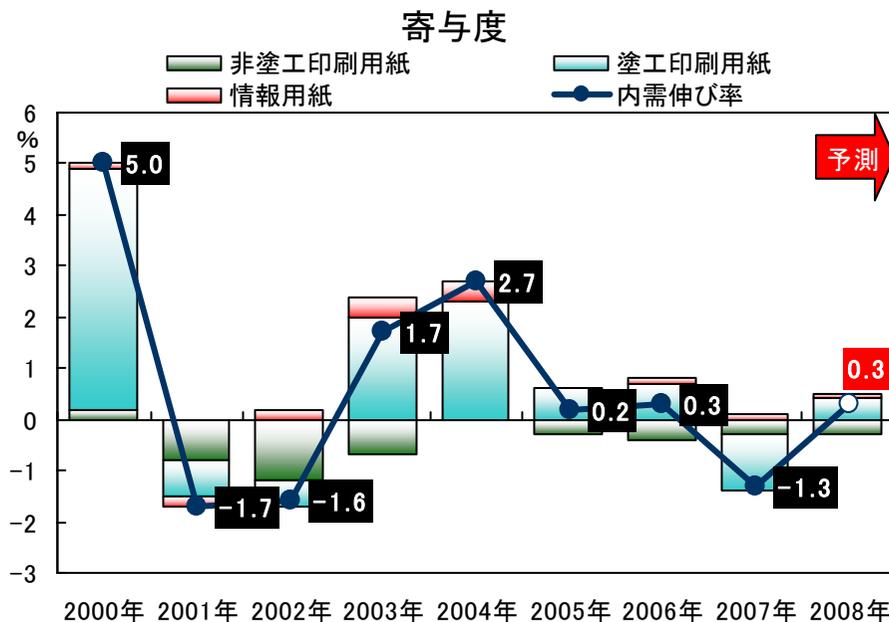


「近年の動向:特徴的な動き」

★紙の内需の牽引役であり、その中心でもある印刷・情報用紙は、2002年を底に4年連続で前年を上回り、特に2004年以降は過去最高を更新してきたが、昨年は6割弱を占める塗工印刷用紙の減少に5年ぶりのマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は4年連続の増加も、輸入は3年連続のマイナスである(32参照)。

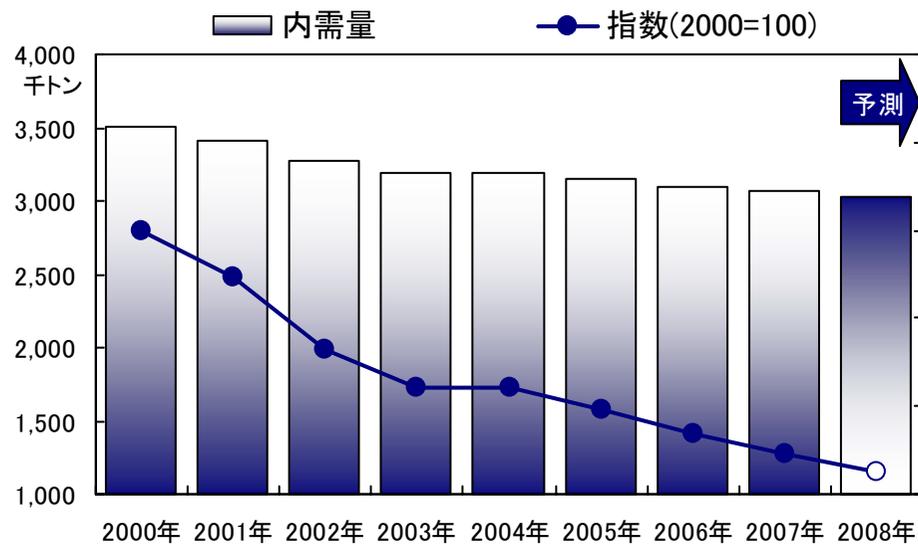
「2008年予測:試算結果等」

☆印刷・情報用紙の品種別試算を積み上げた結果、印刷・情報用紙の内需は1,193万トン、前年に対して0.3%、3万トンの増加であり、6年連続で1%を下回る予測である。過去最高の2006年に対しては1.0%、12.2万トンの減少となる。

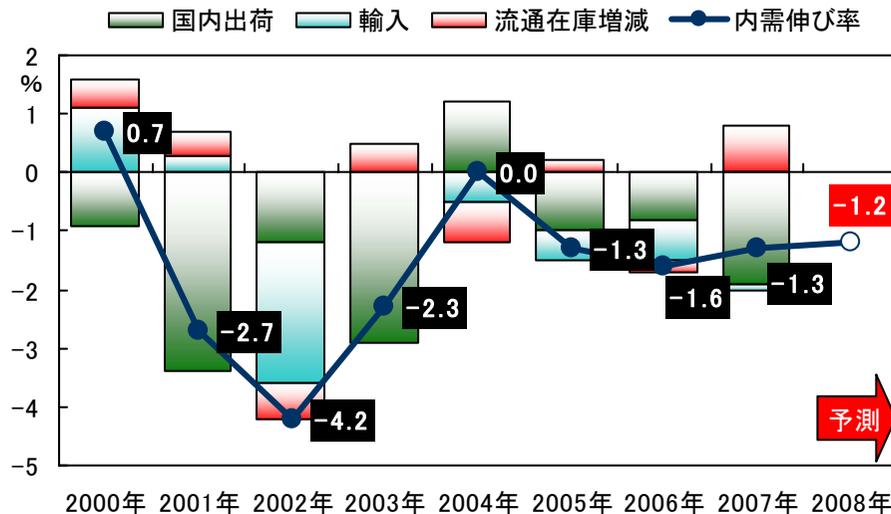


☆品種別寄与度は、非塗工印刷用紙が-0.3、塗工印刷用紙が0.4、情報用紙が0.1であり、塗工印刷用紙が印刷・情報用紙の内需を牽引する。

(4)-① 非塗工印刷用紙



寄与度



「近年の動向:特徴的な動き」

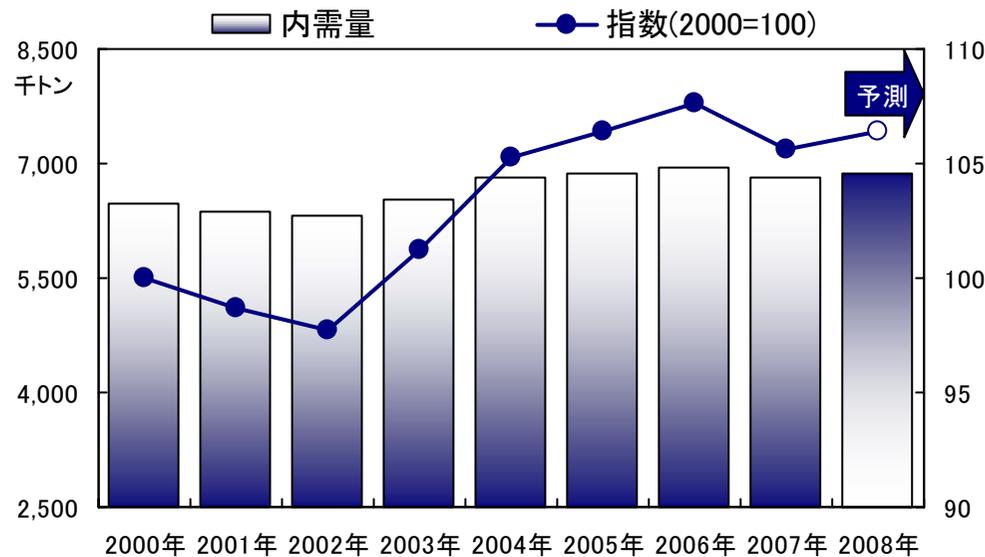
★印刷・情報用紙の内需のうち、非塗工印刷用紙は出版等主たる需要部門の不振や塗工印刷用紙へのシフト等により漸減傾向にあり、ピークの1991年に対しては75%程度の水準まで低下している。サプライ別には、約9割を占める国内出荷が2004年を除き前年を下回って推移しており、全体でも2001年より7年連続のマイナスである。

「2008年予測:試算結果等」

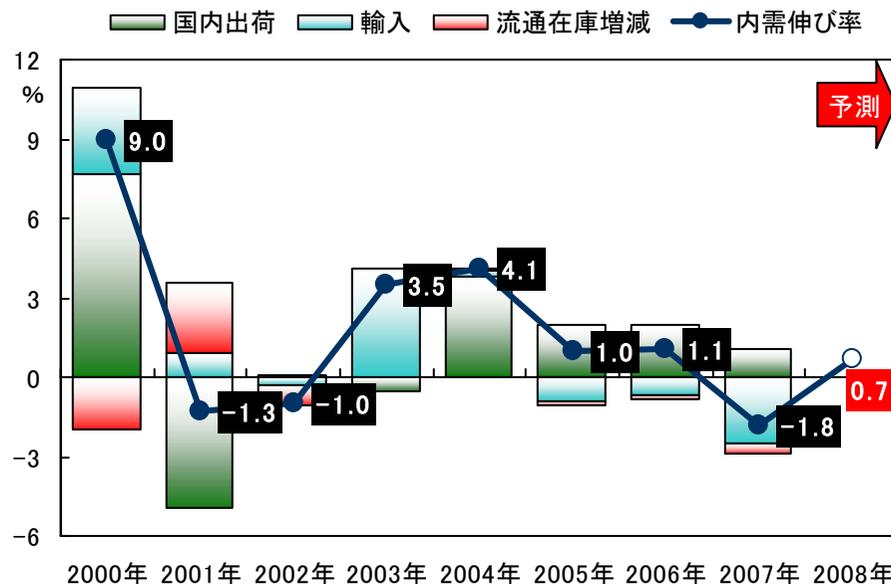
☆品種別には、上級印刷用紙は、小口印刷物の内製化によるPPC用紙へのシフトや電子化に伴う帳票類の減少等マイナス要因もあるが、汎用性があり、チラシや目論見書・説明書等向けに底堅い需要が期待される。一方、中・下級印刷用紙は、主たる需要先である出版業界を取り巻く環境が、①雑誌を中心に発行部数が減少している。②返品率が上昇している。③更には情報収集のツールとしてインターネット、モバイル端末等電子媒体へシフトしている(情報ツールの多様化による活字離れ)等により、依然として厳しい状況にあり期待できない。また、フリーペーパーもほぼ一巡しており、飽和状態にある。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は1.2%減と予測した。近年の基調に変化なく、8年連続のマイナスである。

(4)-② 塗工印刷用紙



寄与度



「近年の動向:特徴的な動き」

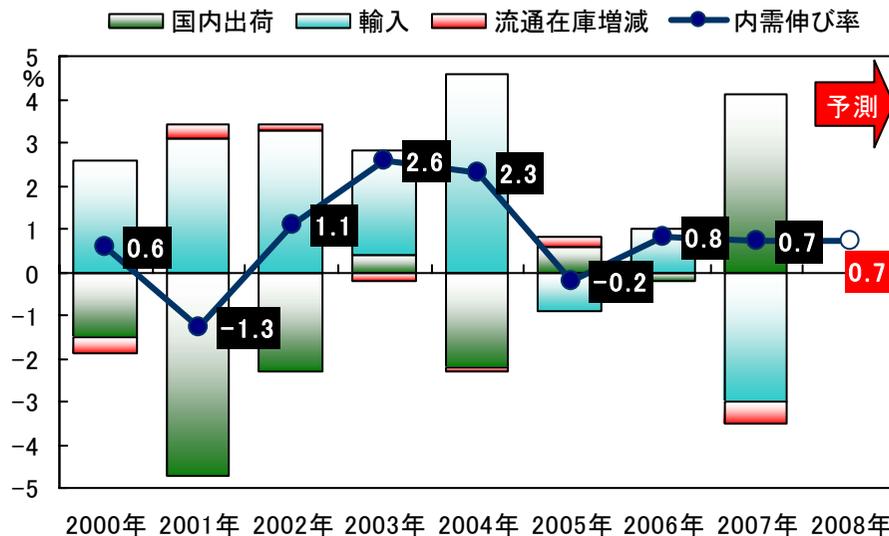
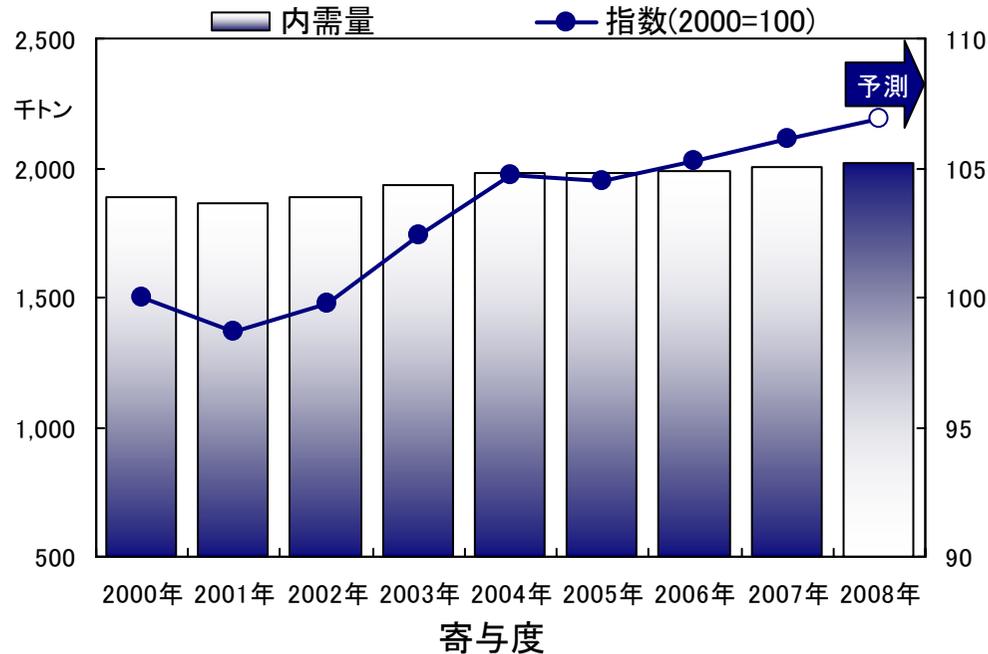
★印刷・情報用紙の内需のうち、塗工印刷用紙はチラシ・カタログ・パンフレット類等販促用商業印刷向けを中心に、また、非塗工印刷用紙からのシフト等により2003年より4年連続で過去最高を更新してきたが、昨年は商業印刷向けの伸び悩みや価格修正による米坪ダウン等により5年ぶりのマイナスとなった。サプライ別には、輸入が2004年をピークに3年連続の減少であるが、国内出荷は4年連続の増加である。

「2008年予測:試算結果等」

☆塗工印刷用紙の内需は、チラシ・カタログ・パンフレット等販促用商業印刷向けを中心に堅調な伸びが期待されるものの、一方で原燃料コストの高騰等から需要各社のコスト削減による米坪ダウン等も予想される。期待は北京五輪関連の特需であり、広告主はデジタル家電に関連する家電量販店や民生電機、観戦ツアーに関連する旅行業界等である。その他には、ゆうちょ銀行の新規業務の展開や保険商品の銀行窓口販売の全面解禁により広告活動の活発化が予想される金融サービス、限られた純増分をめくり顧客獲得が激化している携帯電話サービス、SC等大型小売店舗の出店が続く小売業界等である。

☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は0.7%増と予測した。品種別には上質コート紙、軽量コート紙、微塗工紙が牽引する。

(4) - ③ 情報用紙



「近年の動向:特徴的な動き」

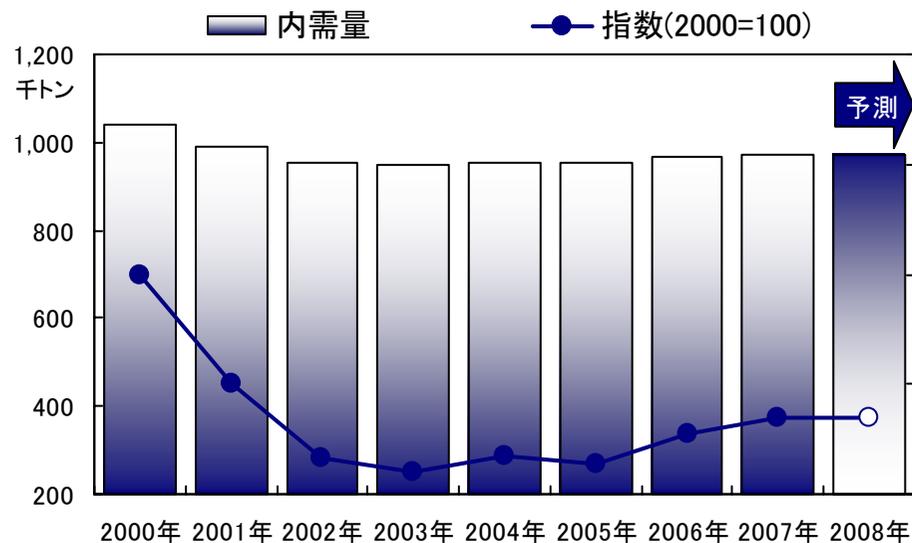
★PPC用紙の需要は堅調であり、1988年に経済産業省(当時通商産業省)の統計品目に新たに計上されてからは、毎年過去最高を更新している。一方、その他の情報用紙は、需要の落ち込み、PPC用紙へのシフト等により横ばいないし減少基調にある。

「2008年予測:試算結果等」

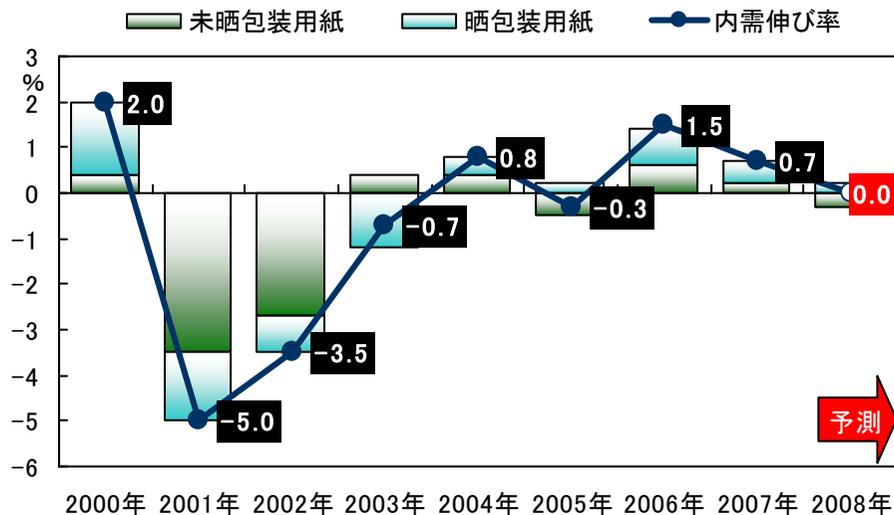
☆情報用紙は、6割強を占めるPPC用紙が引き続き需要を牽引する。PPC用紙は汎用性があり、一般上級紙系、複写原紙、フォーム用紙等からのシフト、小口印刷物の内製化といったオフィスでの使用増、また、小規模事業者を中心としたOA化による需要裾野拡大などを背景に伸張する。一方、複写原紙、フォーム用紙は帳票・伝票等の電子化の進展、PPC用紙へのシフト等により減少傾向が続く。但し、フォーム用紙の中ではデザインフォームはオンデマンド印刷による各種DM類等を中心に底堅い。その他の情報用紙では、感熱紙原紙は感熱紙の輸出好調から堅調に推移する。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は0.7%増と予測した。

(5) 包装用紙



寄与度



「近年の動向:特徴的な動き」

★2001年、2002年に大きく減少して以降、未晒包装用紙については低位安定が続くものの、微増傾向にある晒包装用紙が下支えとなって堅調に推移。

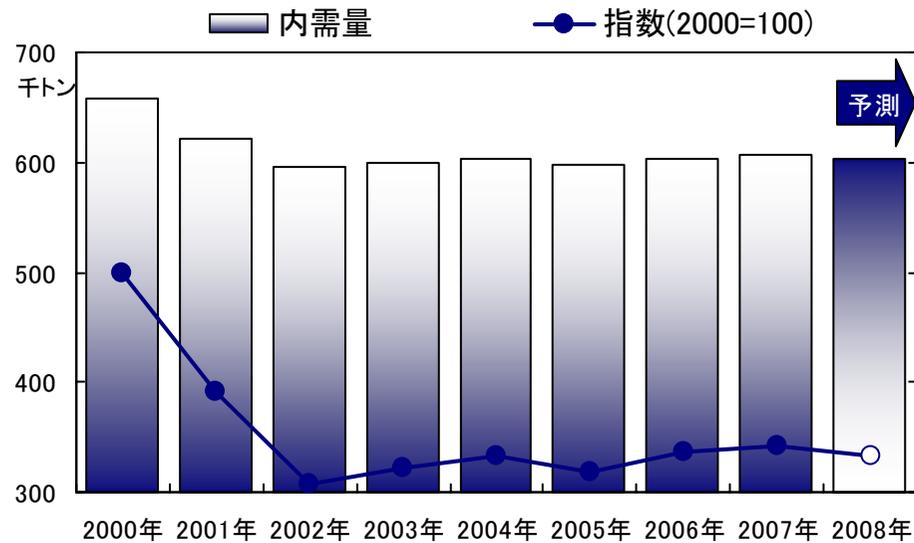
「2008年予測:試算結果等」

☆未晒包装用紙については、重包装用紙袋の需要が低調であり、軽包装用についても、需要構造に変化はなく、減少傾向であることから減少を見込む。晒包装用紙については、堅調な個人消費を背景として手提袋用や封筒用に需要増が見込まれる。また、デパート等の包装用は省包装化や他品種への移行が続き減少傾向にあるものの、広範に用いられる加工用は底堅い需要が期待される。本年は未晒包装用紙については減少も、晒包装用紙は微増傾向が継続する見込みであり、包装用紙については前年横ばいを見込む。

☆以上により、包装用紙の品種別試算を積み上げた結果、包装用紙の内需は97.3万トン、前年に対して0.0%であり、横ばいの予測である。過去最高の1990年に対しては19.2%、23.1万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、未晒包装用紙が-0.3、晒包装用紙が0.2であり、晒包装用紙が包装用紙の内需を牽引する。

(5) - ① 未晒包装用紙



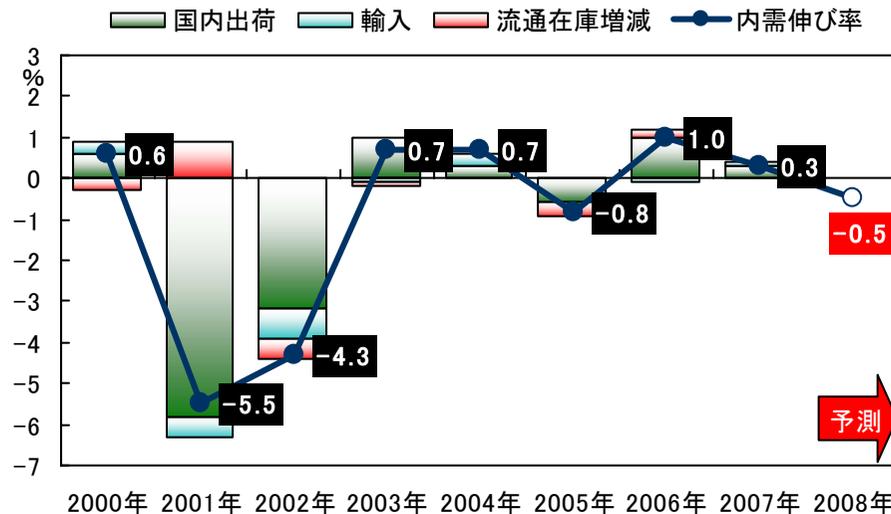
「近年の動向:特徴的な動き」

★2001年・2002年に大きく減少した後、2003年にはその反動からプラスに転じたものの、その後の回復のテンポは鈍く、2007年も2000年の水準まで回復していない。

「2008年予測:試算結果等」

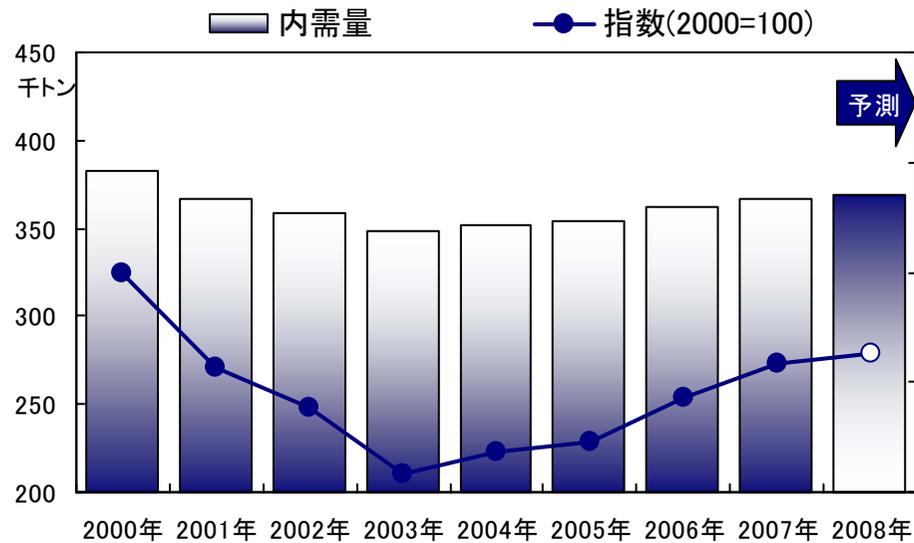
☆全体の約6割を占める重袋用両更クラフト紙については、比較的堅調な合成樹脂向けを除き、セメント、飼料、製粉、石化、米麦などその他の主要分野に関しては低調であることから減少を見込む。軽包装用についても、需要構造に大きな変化はなく、環境面から省包装化が更に進むこと等から手提袋用・角底袋用ともに微減傾向が継続する見込み。また、封筒のカラー化に伴う印刷の多色化から白物、色物へのシフトが進み、封筒用についても減少を見込む。

寄与度



☆以上を勘案し、未晒包装用紙の内需は0.5%減と予測した。

(5) – ② 晒包装用紙



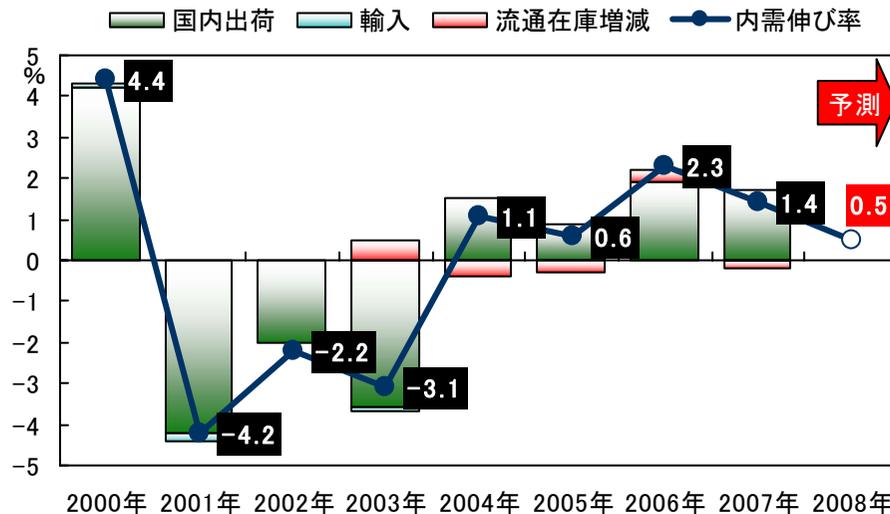
「近年の動向:特徴的な動き」

★包装用は省包装化により減少傾向にあるものの、手提袋用・封筒用については堅調な個人消費を背景として増加傾向にあり、加工用についても堅調に推移。

「2008年予測:試算結果等」

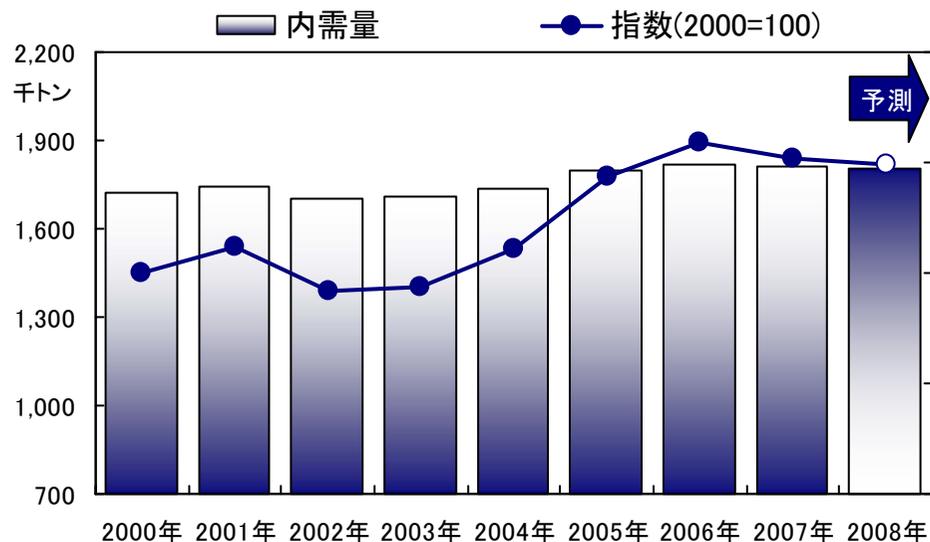
☆晒クラフト紙については、堅調な個人消費を背景として、大型商業施設の開業や海外有名ブランドの日本進出により専門店、ブランドショップ向けを中心とした手提袋用の需要増が引き続き期待される。封筒用についてもDM及び請求書封筒類に堅調な需要を見込む。純白ロール紙については、デパート等の包装用は省包装化や他品種への移行が続き減少傾向にあるものの、広範囲の分野に使用される加工用は底堅い需要を見込む。

寄与度

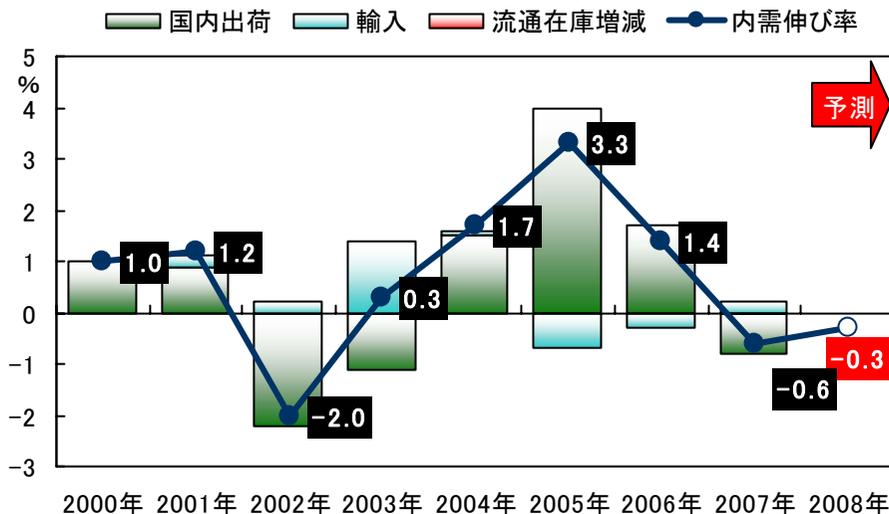


☆以上を勘案し、晒包装用紙の内需は0.5%増と予測した。

(6) 衛生用紙



寄与度



「近年の動向:特徴的な動き」

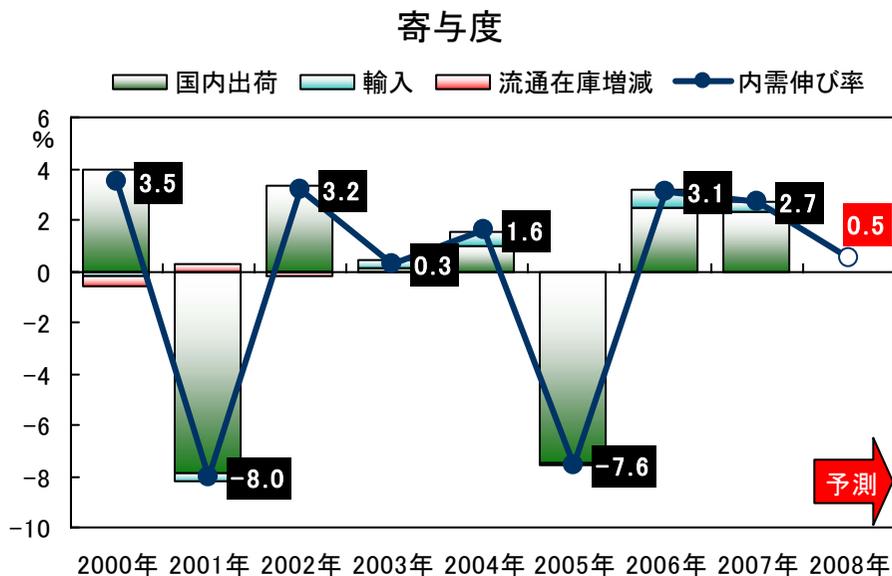
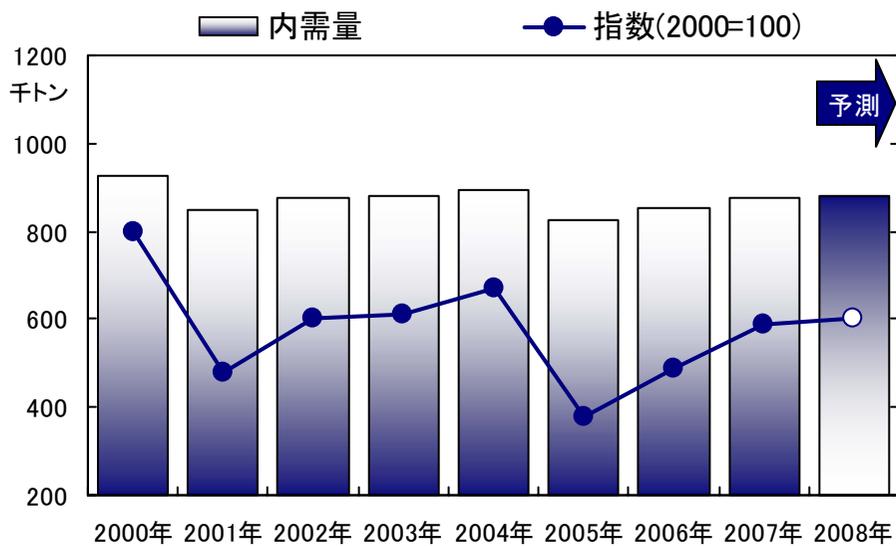
★生活必需品として需要は底堅く、近年は増加基調にあったが、原油・原材料コストの高騰を背景とした製品価格の値上げによる節約志向・買い控え等の影響から昨年は5年ぶりの減少となった。2000年以降トイレットペーパーの需要は、1%後半～2%前半の成長を維持してきたが、昨年は1%を割り込み、比較的製品価格の上昇に左右されなかった消費財にも少なからず影響が出てきているのが懸念材料として挙げられる。

「2008年予測:試算結果等」

☆全体の6割を占めるトイレットペーパーは、生活必需品として底堅い需要を見込むが、今後も原油・原材料価格は高値圏での推移が予測されることから、製品価格の上昇に伴う節約志向の影響が懸念される。ティシュペーパーは花粉飛散量、インフルエンザ等風邪の流行といった要因が影響してくる。昨夏が猛暑であったことから、本年の花粉飛散量は平年以上と予測されていること、インフルエンザの発生数も例年に比べ増加していることがプラス要因ではあるが、トイレットペーパー同様、製品価格の上昇から節約、買い控えによる影響を受け減少を見込む。タオル用紙については、家庭用は底堅い需要を見込み、業務用は大型商業施設等向けを中心に需要増加を見込む。

☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は0.3%減と予測した。

(7) 雑種紙



「近年の動向:特徴的な動き」

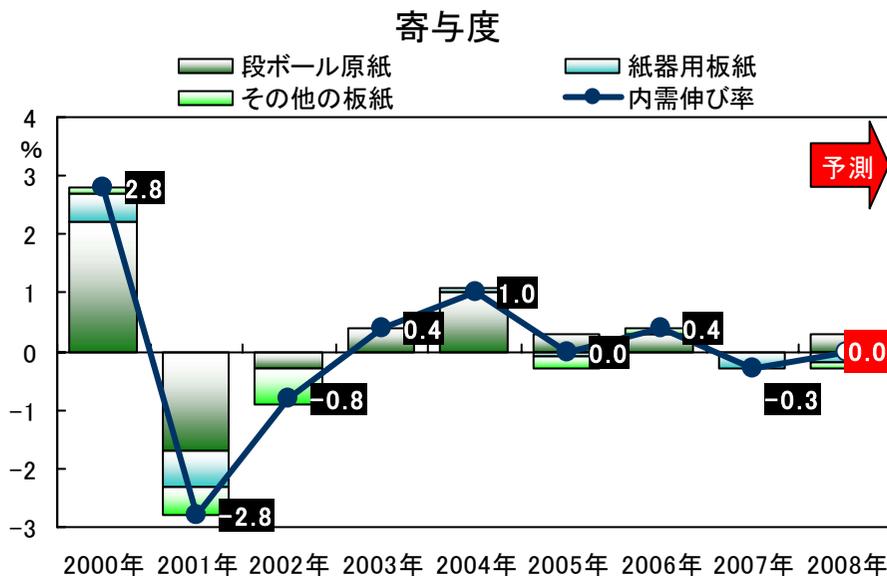
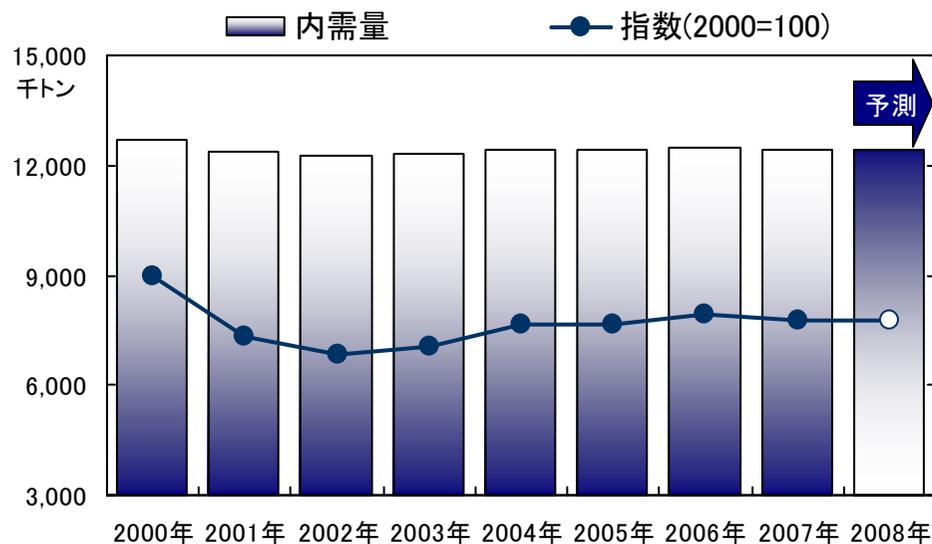
★工業用雑種紙は用途が多岐に渡り、需要動向の把握が難しい分野である。その中で近年、需要が堅調な品種は、健康食品ブーム(納豆、ヨーグルトなど)を背景とした食品容器原紙、デジタル家電機器の販売増による電気絶縁紙、物流関連ラベル等の接着紙原紙である。一方、グラシンペーパー、家庭用雑種紙は減少の一途を辿っている。

「2008年予測:試算結果等」

☆雑種紙の需要は底堅い。電気絶縁紙はデジタル家電販売の好調を受け、引き続き需要は堅調であり、その他の品種も加工用途向けを中心に微増である。一方、建材用原紙は、改正建築基準法の施行により昨年からの住宅着工件数の大幅減の影響により減少である。グラシンペーパー、家庭用雑種紙は基調に変化なく減少を見込む。

☆以上を勘案し、雑種紙の内需は0.5%増と予測した。

(8) 板紙合計



「近年の動向:特徴的な動き」

★2003年以降、景気回復に伴い、ほぼ横ばいで推移している。このうち板紙の約8割を占める段ボール原紙は、飲料等加工食品向けを中心に微増程度で推移したが、紙器用板紙及びその他板紙は、薄物化、省包装、軟包装へのシフトなどで、横ばいないし微減となっている。

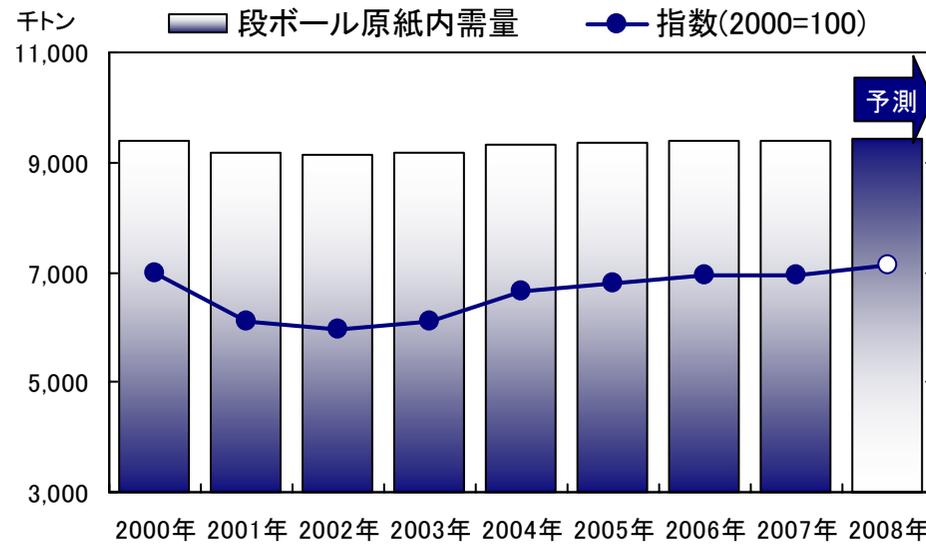
「2008年予測:試算結果等」

☆段ボール原紙は、GDPの堅調な伸びを背景に、0.4%増(3.7万トン増)と、加工食品や家電製品を中心に微増程度と見込む。一方、紙器用板紙は1.2%減(2.6万トン減)と、原燃料価格の上昇に伴い需要業界の省包装、薄物化、他素材へのシフトが一段と進むことがマイナス要因となる。その他板紙も、改正建築基準法の影響により石膏ボード原紙を中心に1.3%の減少(1.1万トン減)。

☆以上により、板紙の品種試算を積み上げた結果、板紙の内需は1,244万トン、前年に対して0.0%であり、横ばいの予測である。過去最高の1997年に対しては2.9%、38万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、段ボール原紙が0.3、紙器用板紙が-0.2、その他の板紙が-0.1であり、段ボール原紙のプラスを、その他2品種が相殺する。

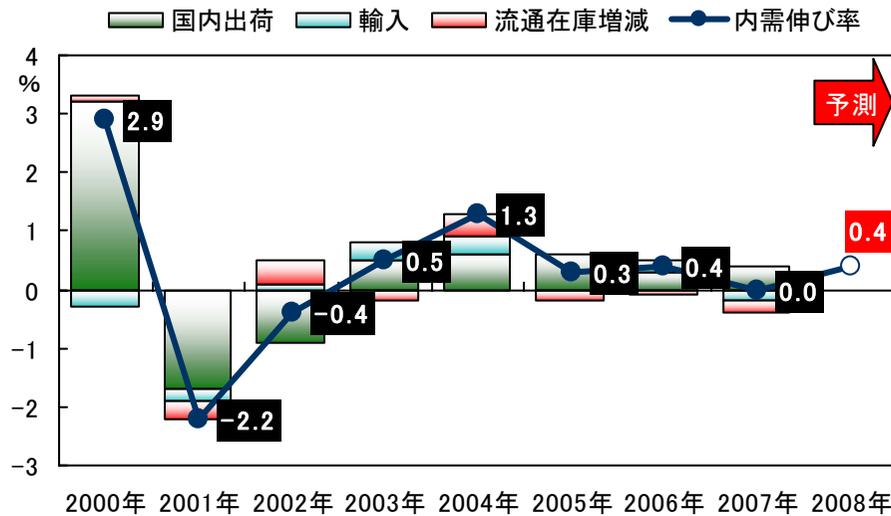
(9) 段ボール原紙①



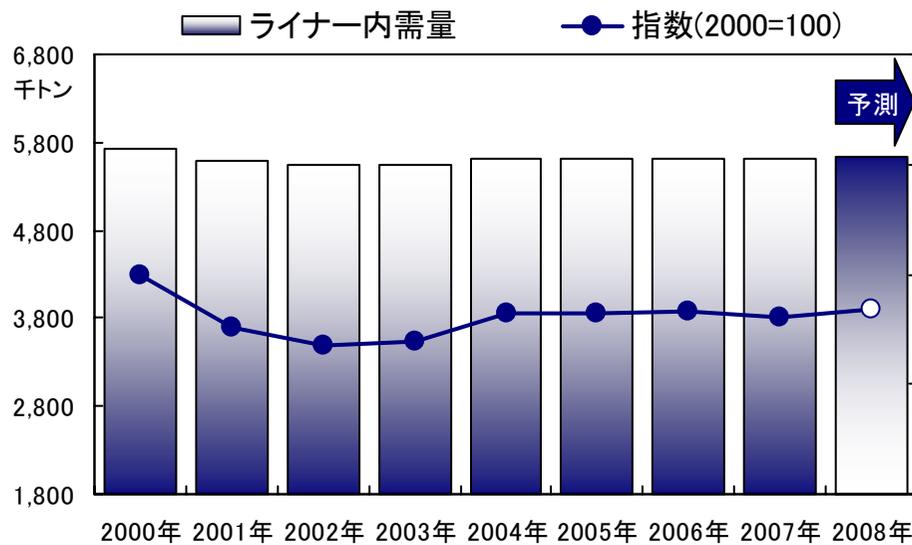
「近年の動向:特徴的な動き」
 ★段ボール原紙は、薄物化の進展により段ボールシート生産ほどの伸びはないものの、景気回復に伴い、堅調に推移している。品種別にみると、中芯原紙がライナーの伸びを上回る傾向にある。

「2008年予測:試算結果等」
 ☆0.4%増(ライナー 0.3%増、中芯0.5%増)と予測した。段ボール原紙内需については、全国段ボール工業組合連合会発表の2008年段ボール需要予測(14,044百万㎡ 前年比100.8%)を参考にした。

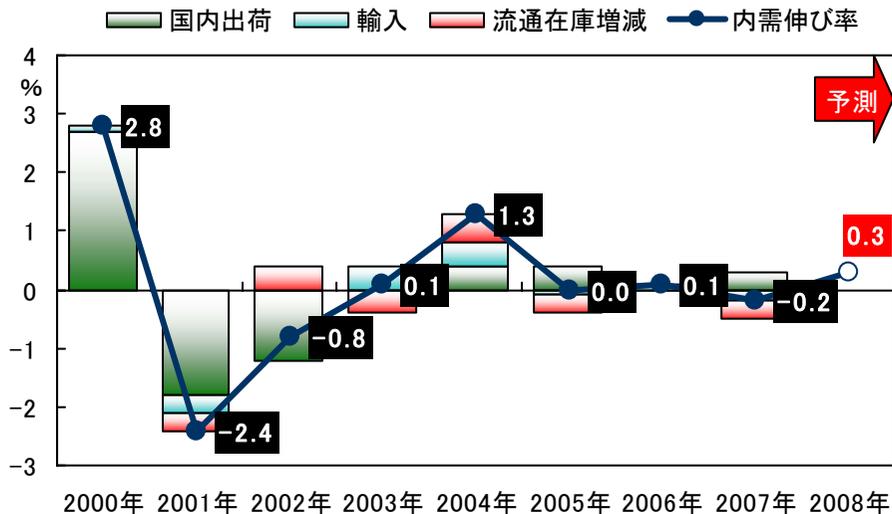
寄与度



(9) 段ボール原紙②



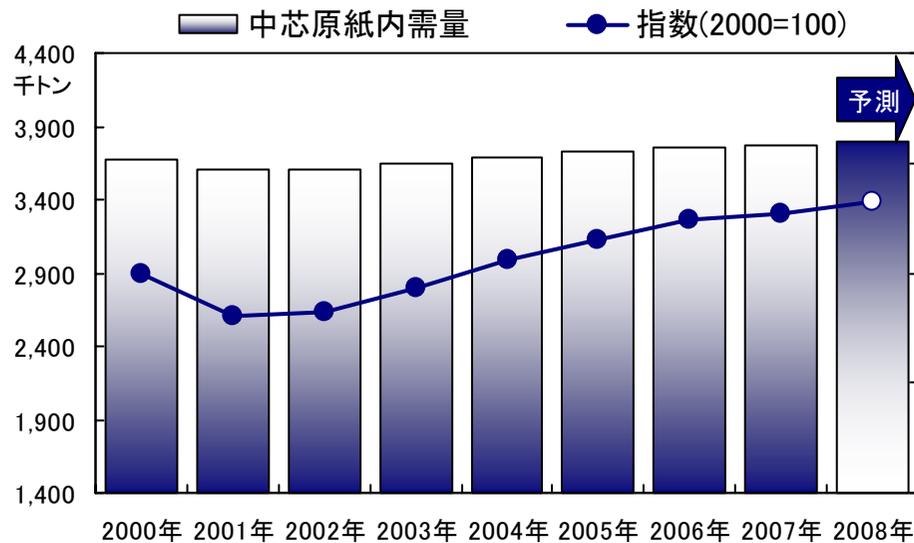
寄与度



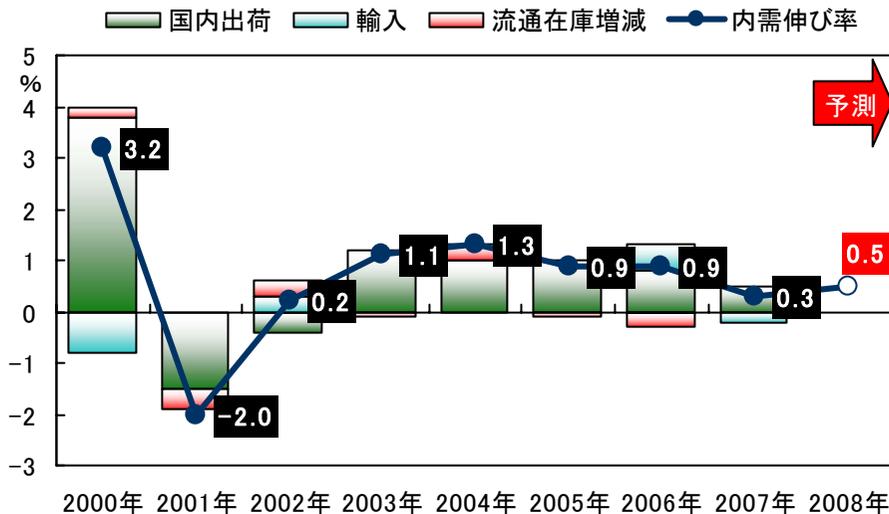
「2008年予測: 主要需要分野の動向」

- ☆最大の需要分野である加工食品は、飲料を中心に好調さを維持すると思われる。このうち、ビールは、飲酒運転防止機運の高まりにより、業務用を中心にあまり伸びが期待できないものの、ミネラルウォーター、果実・野菜飲料等清涼飲料は、好調さを持続する見込みである。食品は、核家族化や高齢化、ライフスタイルの多様化により、調理の簡便性で優る冷凍食品や、総菜や弁当など中食市場関連が期待される。また本年4月のメタボリック症候群対策を中心とした医療制度改革で、さらに健康管理意識が高まることが予想され、サプリメント類、ヨーグルト等健康関連商品を中心に、伸びが期待できる。
- ☆電気器具・機械器具向けも、家電製品を牽引役に増加する見込みである。薄型テレビは、低価格化が進んでいる上、北京五輪や地上デジタル放送移行に向けての買換え需要などで期待がもたれる。また高機能、省エネ率の高い洗濯機、クッキングヒーター、電気釜等白物家電の伸びが見込まれる。ただし、自動車関連は、国内販売は低迷しており、あまり期待できない。

(9) 段ボール原紙—③



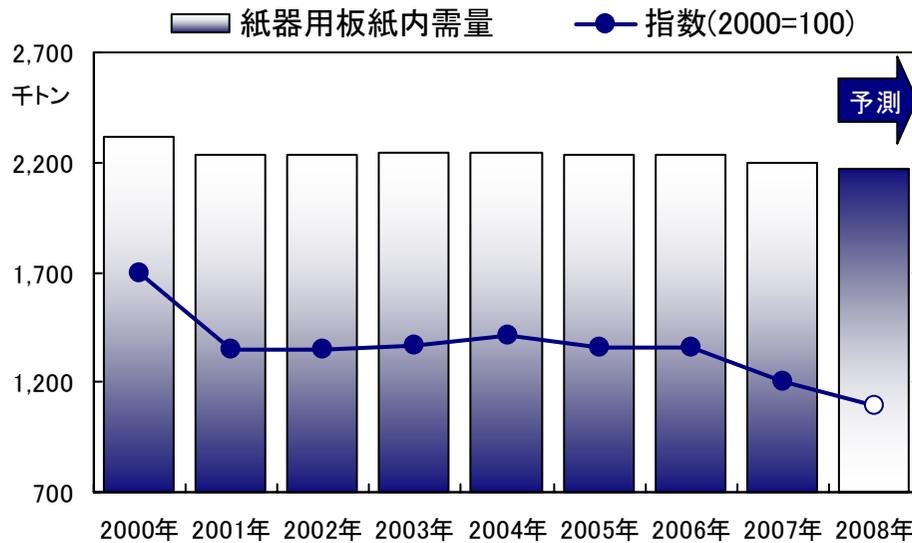
寄与度



「2008年予測: 主要需要分野の動向」

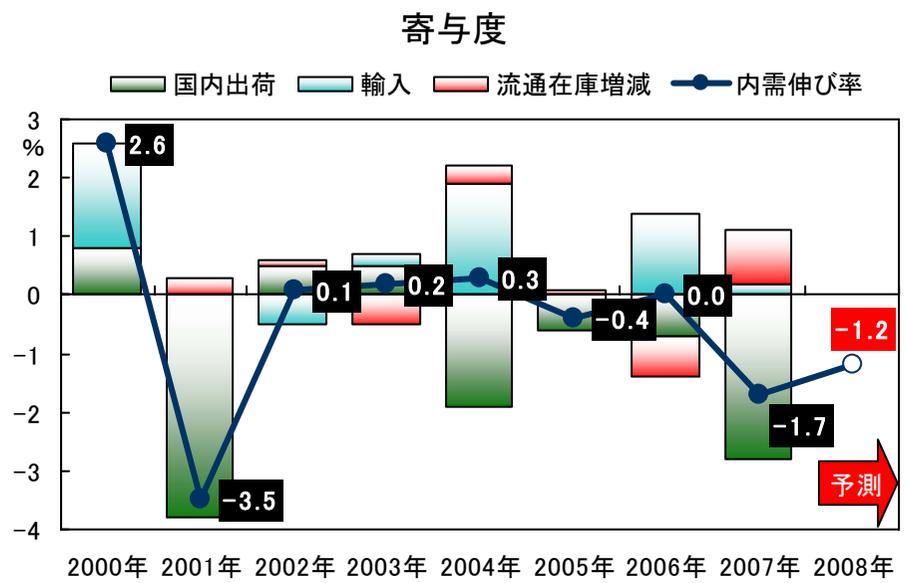
- ☆薬品、洗剤、化粧品は、薬量販店の相次ぐ出店や、コンビニエンスストアの医薬品強化、ボディ用香水等好調な男性化粧品などを背景に、伸びが期待されるが、洗剤は、販売量は伸びているものの、濃縮化、コンパクト化、詰替え用途増で横ばい程度と見込む。
- ☆青果物は、作付面積の減少や、輸入品の増加、天候不順、通い箱の普及促進等不安定要素が多く、低調に推移すると思われる。
- ☆陶磁器、ガラス、雑貨は、薄型テレビ用ガラスは堅調なもの、自動車用ガラスは不振で、改正建築基準法による住宅着工の減少や輸入雑貨品増による雑貨の減少、陶磁器生産縮小など依然厳しい状況が続く。
- ☆繊維は、クールビズはプラス要因であるものの、輸入品の攻勢により、低迷が続くと思われる。
- ☆その他ペット関連商品、ガーデニング商品は底堅いと見込まれる。

(10) 紙器用板紙—①

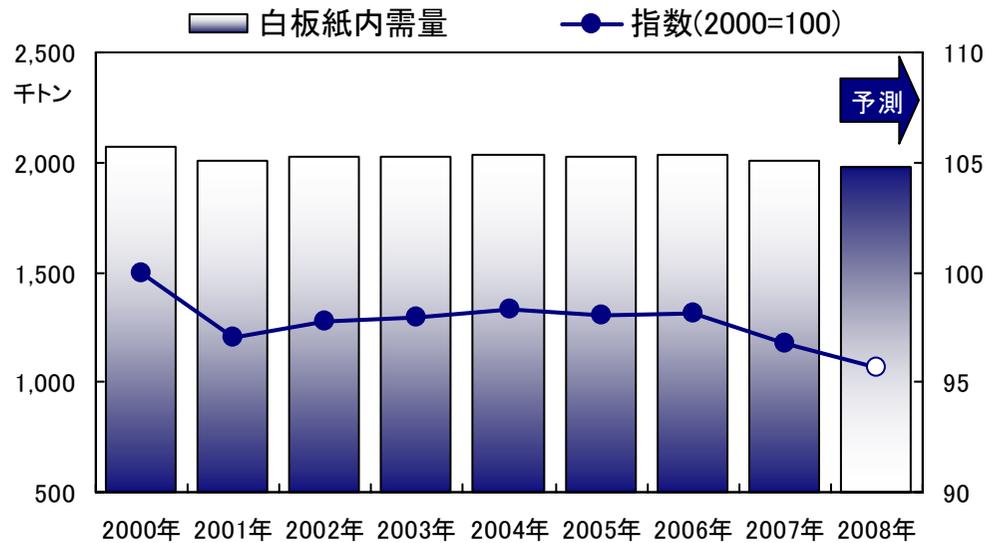


「近年の動向:特徴的な動き」
 ★紙器用板紙は、国内出荷が低迷しているものの、コート白ボールや高級紙器向けの輸入が増大し、内需はほぼ横ばいで推移した。しかしながら2006年後半以降、価格修正をきっかけに、薄物化、省包装、軟包装へのシフトに拍車がかかり、2007年は1.7%のマイナスとなった。

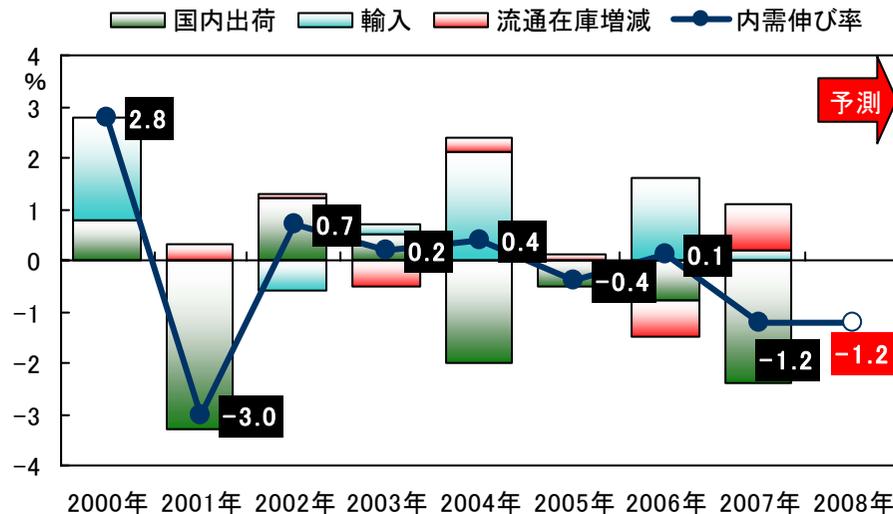
「2008年予測:試算結果等」
 ☆1.2%減(白板紙 1.2%減、黄・チップ・色1.6%減)と予測した。
 原燃料価格の高騰により食料品、ティッシュ、食品包装用ラップなど末端商品が相次いで値上げしており、製品需要減並びにコスト削減のための包装需要減は避けられそうもない。今後も薄物化、寸法の小型化、省包装が進展し、価格面で優位な軟包装化も進む可能性がある。



(10) 紙器用板紙―②



寄与度

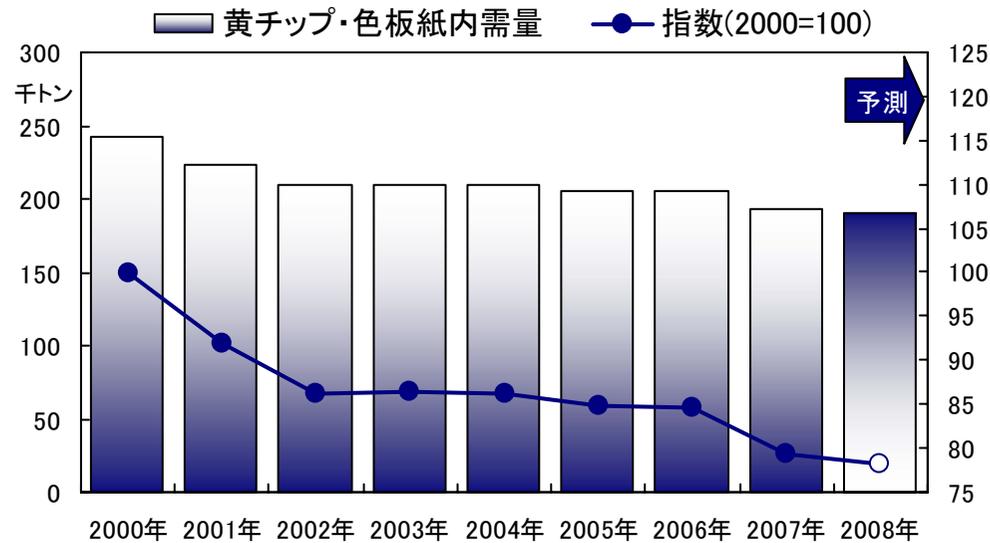


「2008年予測:試算結果等」

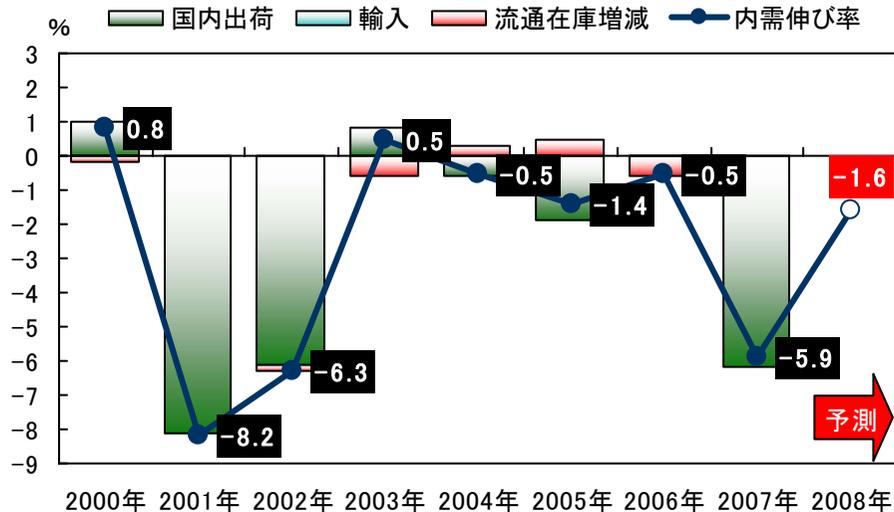
☆食品については、調理の簡便性で優る冷凍食品や、レトルト、総菜、弁当など中食類、ヨーグルト、味噌汁、ラーメン等のカップ類、果実・野菜飲料は期待されるものの、菓子類は、少子高齢化や内容量を絞った高級化志向、「お徳用パック」などの軟包装へのシフトにより、引き続き減少。

医薬品は、ドラッグストアの出店ラッシュ、コンビニエンスストアの医薬品強化、ドリンク剤、サプリメントなど健康関連商品で期待がもたれるが、ティッシュは、価格の上昇に伴う節約志向・買い控えにより減少が見込まれる。原油高騰、環境意識の高まりによりCDケース等プラスチックなどの他素材からのシフトはプラス要因であるが、食品包装用ラップは製品値上げにより厳しい状況となる。

(10) 紙器用板紙―③



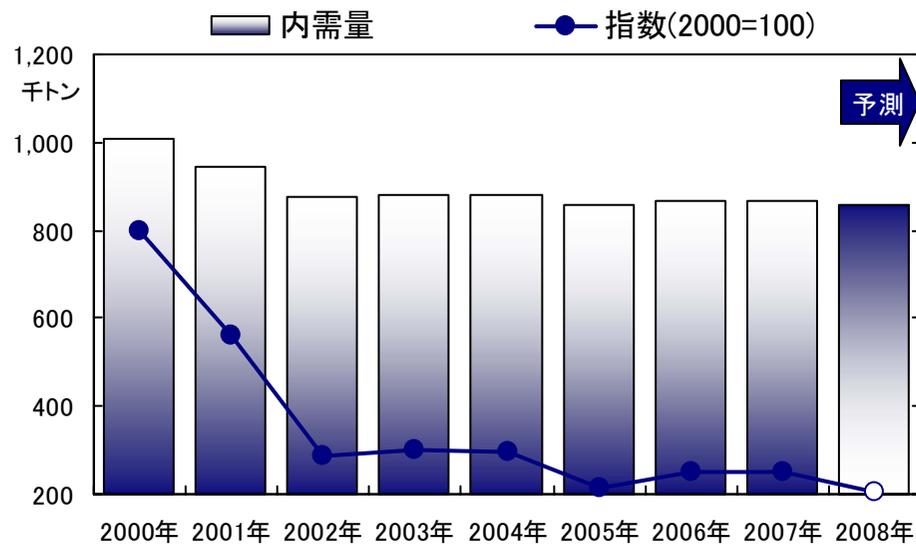
寄与度



「2008年予測:試算結果等」

☆文具事務用品は、OA化の進展により帳簿、ファイル類の不振が続く。商業印刷分野は、POP広告需要が比較的堅調なもの、トレーディングカードは、テレビゲームなど電子玩具の伸張もあって、一時期の勢いを失っている。出版向けは、少子化、活字離れ、発行部数減少などで低迷しており、雑誌の表紙、ハードカバーの芯、ブックケース向けは、依然厳しい状況が続く。そのほかでは、北京五輪の若干の特需(雑誌・出版表紙、POP、パンフレット、関連グッズの高級パッケージ他)が見込まれる。また紙器用途で、厚物コート白ボールから、マイクロフルート段ボールへのシフトによる需要減は、マイナス要因となる。

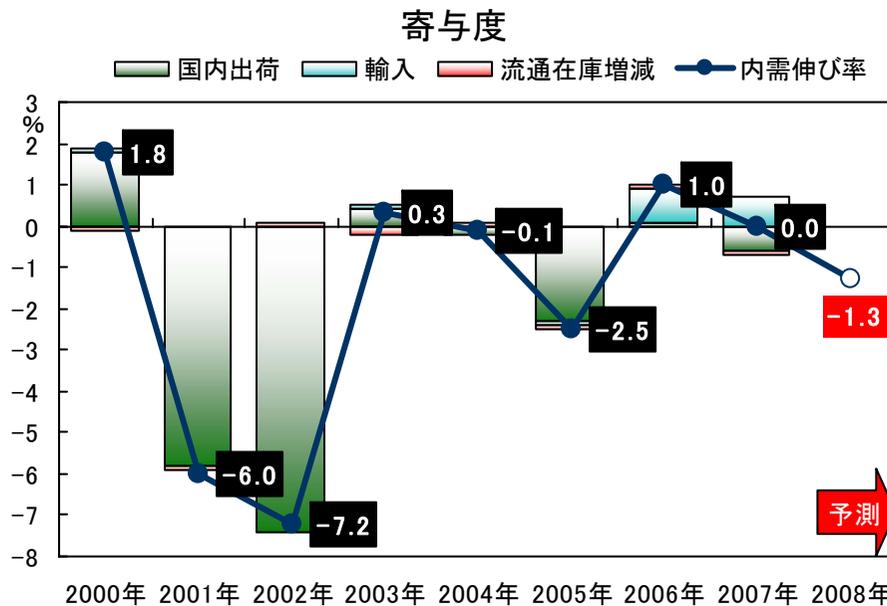
(11) その他の板紙



「近年の動向:特徴的な動き」
 ★ 2001年、2002年に住宅着工戸数低迷の影響を受け建材原紙が大きく減少して以降、微減傾向が続く。2007年についても改正建築基準法の影響により建材原紙は減少となった。

「2008年予測:試算結果等」
 ☆ 建材原紙については、改正建築基準法の影響による減少が2008年1～3月期まで続き、2008年4～6月期には回復に転じる予測だが、施行前の水準に戻るまでには更に時間がかかるとみられ大幅な減少が見込まれる。ワンプについては大手各社が塗工紙の新マシンを稼働させることから需要増が見込める。紙管原紙についても、ワンプ同様、新マシン稼働による需要増が見込めるものの、再生紙管の需要増等により横ばいを見込む。

☆以上を勘案し、その他の板紙の内需は1.3%減と予測した。



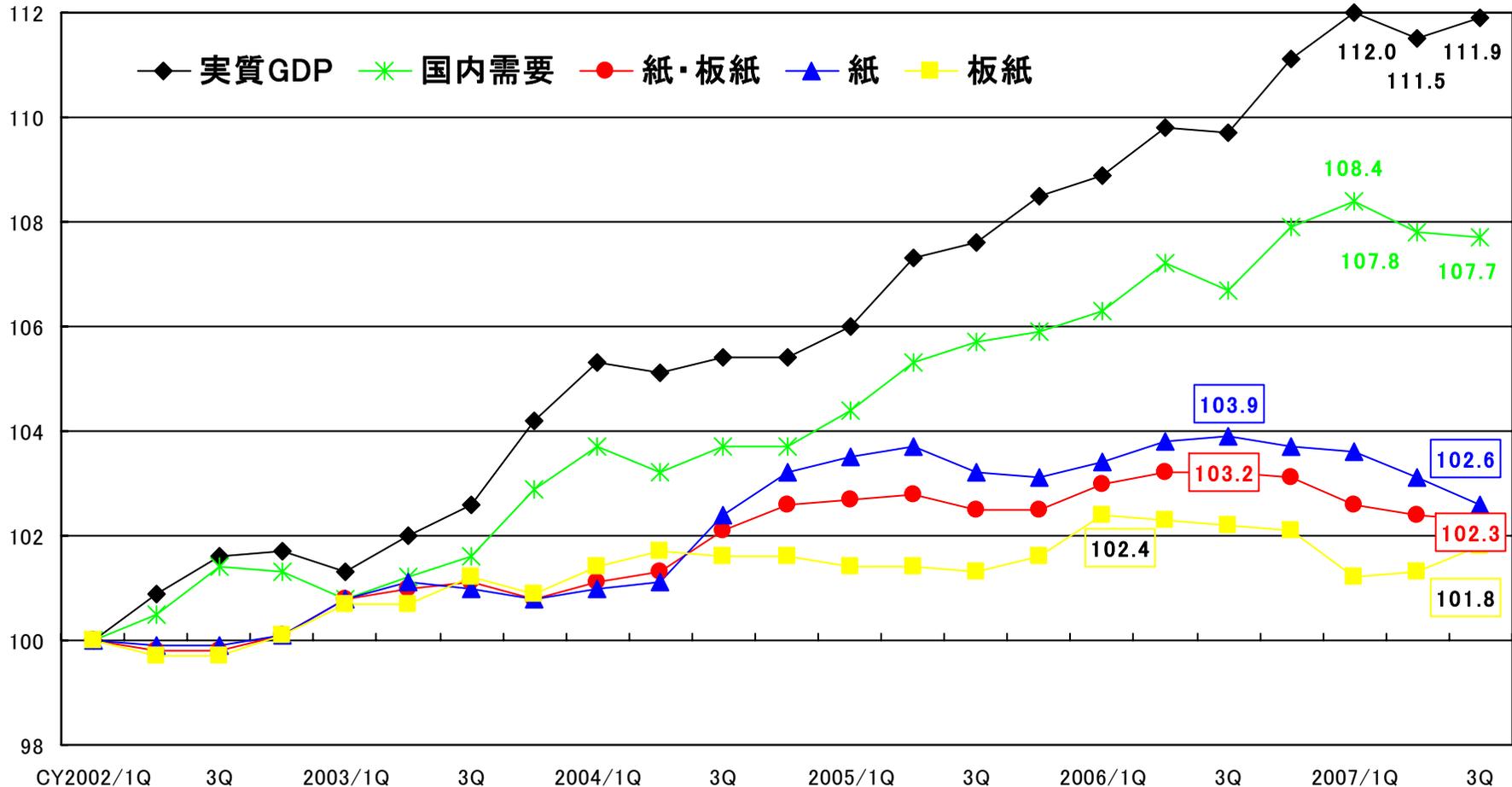
IV. 2007年紙・板紙内需実績見込み

(単位:トン、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		07年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
	対前年比		対前年比		対前年比			対前年比(A)				
紙	新聞用紙	3,604,891	99.7	109,967	74.8	3,714,858	98.7		3,714,858	98.7	99.5	▲ 0.8
	非塗工印刷用紙	2,852,229	98.0	195,657	98.3	3,047,886	98.0	-15,557	3,063,443	98.7	98.2	0.5
	塗工印刷用紙	6,546,763	101.2	327,490	65.1	6,874,253	98.6	47,838	6,826,415	98.2	101.5	▲ 3.3
	情報用紙	1,676,305	105.2	339,069	85.2	2,015,374	101.2	9,139	2,006,235	100.7	100.3	0.4
	印刷・情報用紙計	11,075,297	100.9	862,216	78.4	11,937,513	98.9	41,420	11,896,093	98.7	100.4	▲ 1.7
	未晒包装紙	602,431	100.3	3,740	114.5	606,171	100.4	-190	606,361	100.4	99.0	1.4
	晒包装紙	366,063	101.7	725	80.7	366,788	101.6	-110	366,898	101.5	100.0	1.5
	包装用紙計	968,494	100.8	4,465	107.2	972,959	100.9	-300	973,259	100.8	99.5	1.3
	衛生用紙	1,784,524	99.2	25,230	113.9	1,809,754	99.4		1,809,754	99.4	101.0	▲ 1.6
	雑種紙	838,937	102.4	36,159	110.4	875,096	102.8		875,096	102.8	99.5	3.3
紙 計	18,272,143	100.6	1,038,037	79.5	19,310,180	99.1	41,120	19,269,060	99.1	100.2	▲ 1.1	
板紙	ライナー	5,519,651	100.3	98,085	88.5	5,617,736	100.0	9,923	5,607,813	99.8	100.3	▲ 0.5
	中芯原紙	3,749,210	100.5	29,445	81.2	3,778,655	100.3	7,168	3,771,487	100.3	100.3	▲ 0.0
	段ボール原紙計	9,268,861	100.4	127,530	86.7	9,396,391	100.1	17,091	9,379,300	100.0	100.3	▲ 0.3
	白板紙	1,540,061	96.9	458,266	101.0	1,998,327	97.8	-7,226	2,005,553	98.7	100.1	▲ 1.4
	黄チップ・色板	192,811	93.8			192,811	93.8	282	192,529	93.9	98.5	▲ 4.6
	紙器用板紙	1,732,872	96.5	458,266	101.0	2,191,138	97.4	-6,944	2,198,082	98.3	100.0	▲ 1.7
	その他の板紙	853,102	99.4	14,364	179.6	867,466	100.1		867,466	100.1	99.3	0.8
板紙計	11,854,835	99.7	600,160	98.6	12,454,995	99.7	10,147	12,444,848	99.7	100.2	▲ 0.5	
紙・板紙計	30,126,978	100.2	1,638,197	85.5	31,765,175	99.3	51,267	31,713,908	99.3	100.2	▲ 0.9	

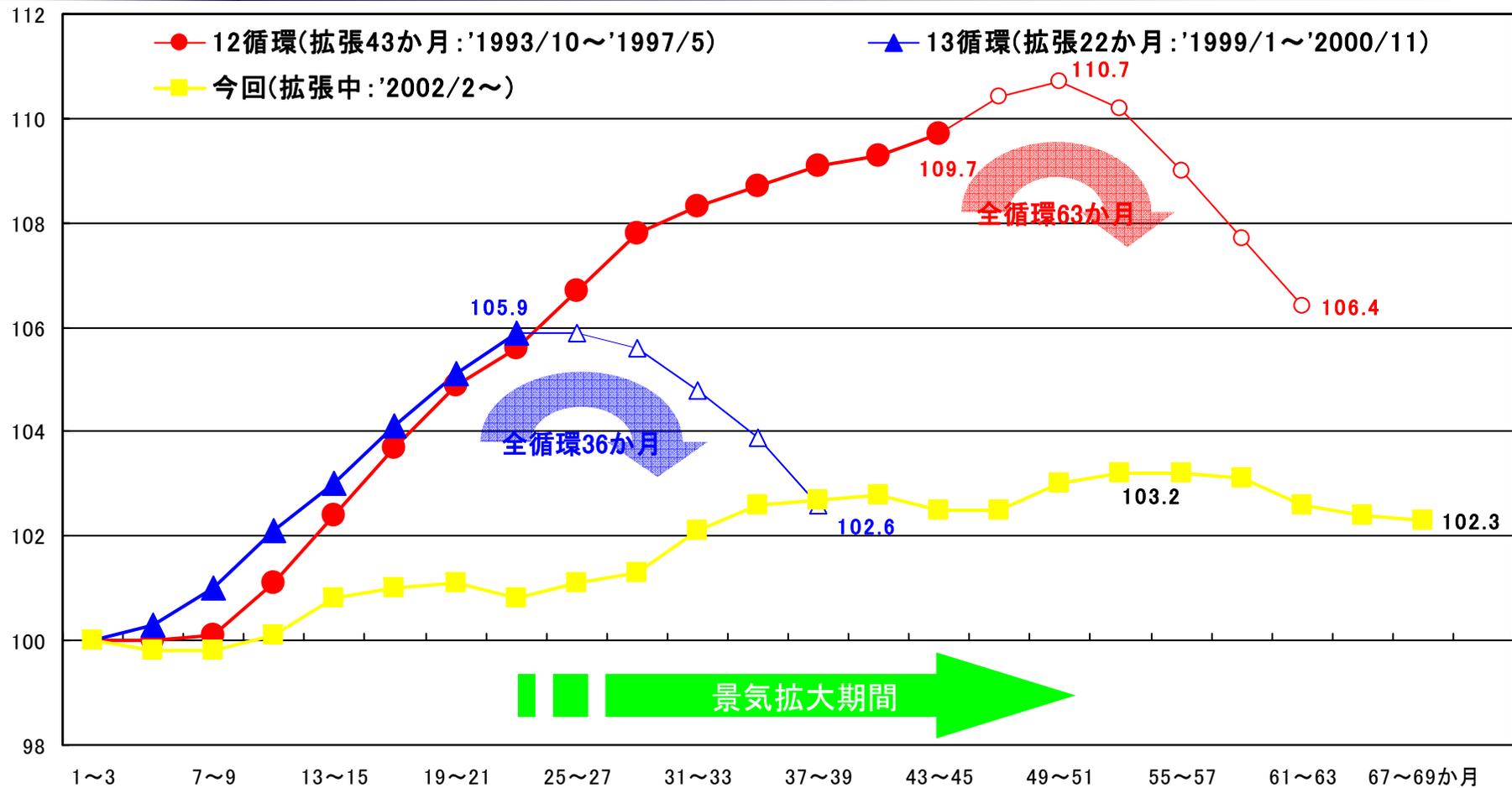
注) 輸入はトン未満を四捨五入しているため、積み上げた数量がそれぞれの計と合わない場合がある。

V. 今回の景気拡大における紙・板紙内需の動き



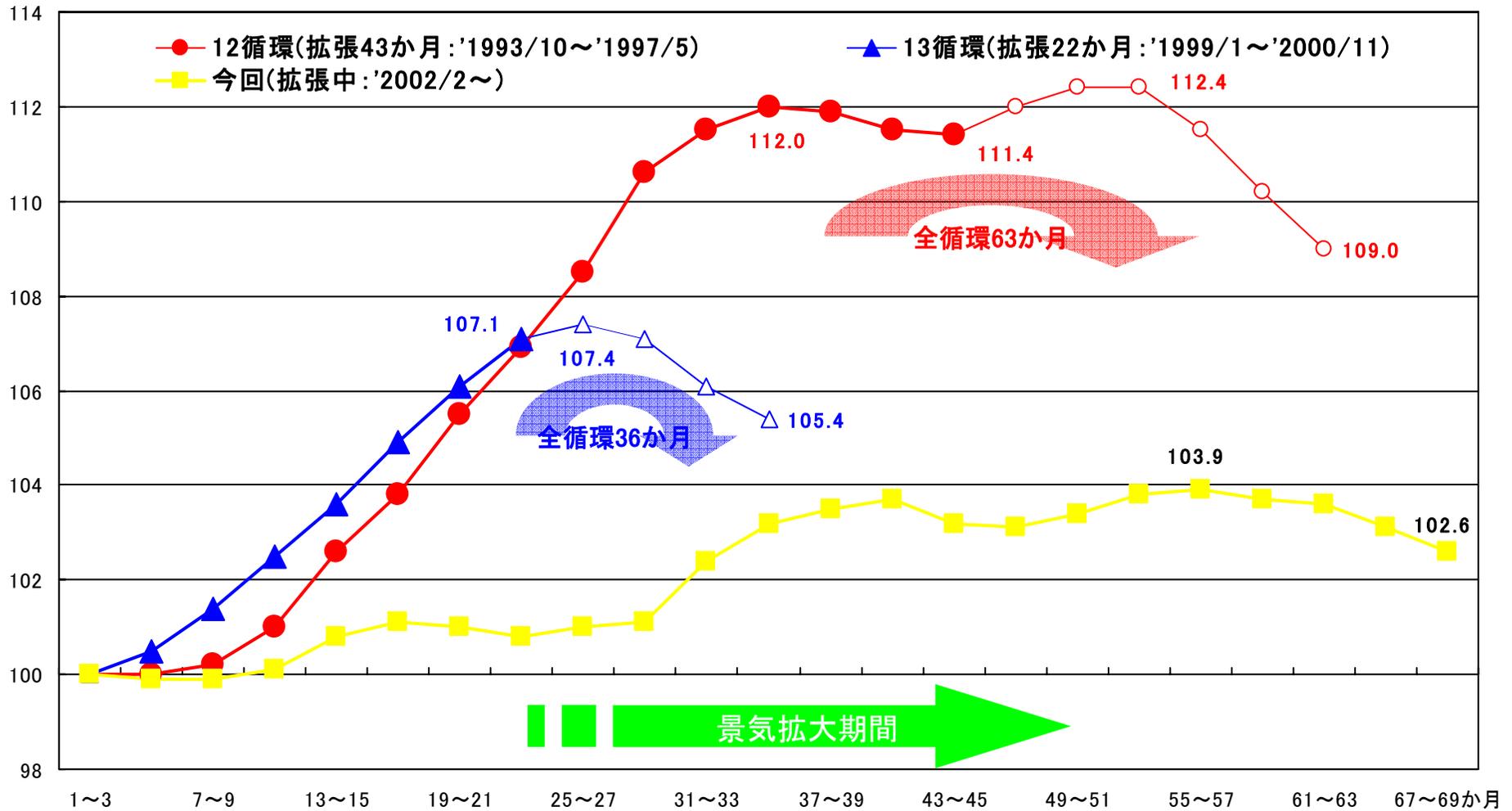
戦後の日本経済は、今回を含め14回の景気循環が観測されている。景気の谷から山までの実質GDPの増加倍率を計算してみると、最も大きいのは、いざなぎ景気の1.68倍である。2002年1月を底に始まった今回の景気拡大は、山には達しておらず、確定はしていないが、実質GDPは2007年7～9月で1.12倍（年率2.0%）である。紙・板紙内需は1.02倍（年率0.4%）、うち紙は1.03倍（年率0.4%）、板紙は1.02倍（年率0.3%）であり、過去の景気拡大局面と比較して紙・板紙の内需の伸びは大きく鈍化している。なお、今回の景気循環における拡大期間は、いざなぎ景気(57か月)を超え戦後最長である。

VI. 景気拡大期における紙・板紙内需の動き（1）紙・板紙



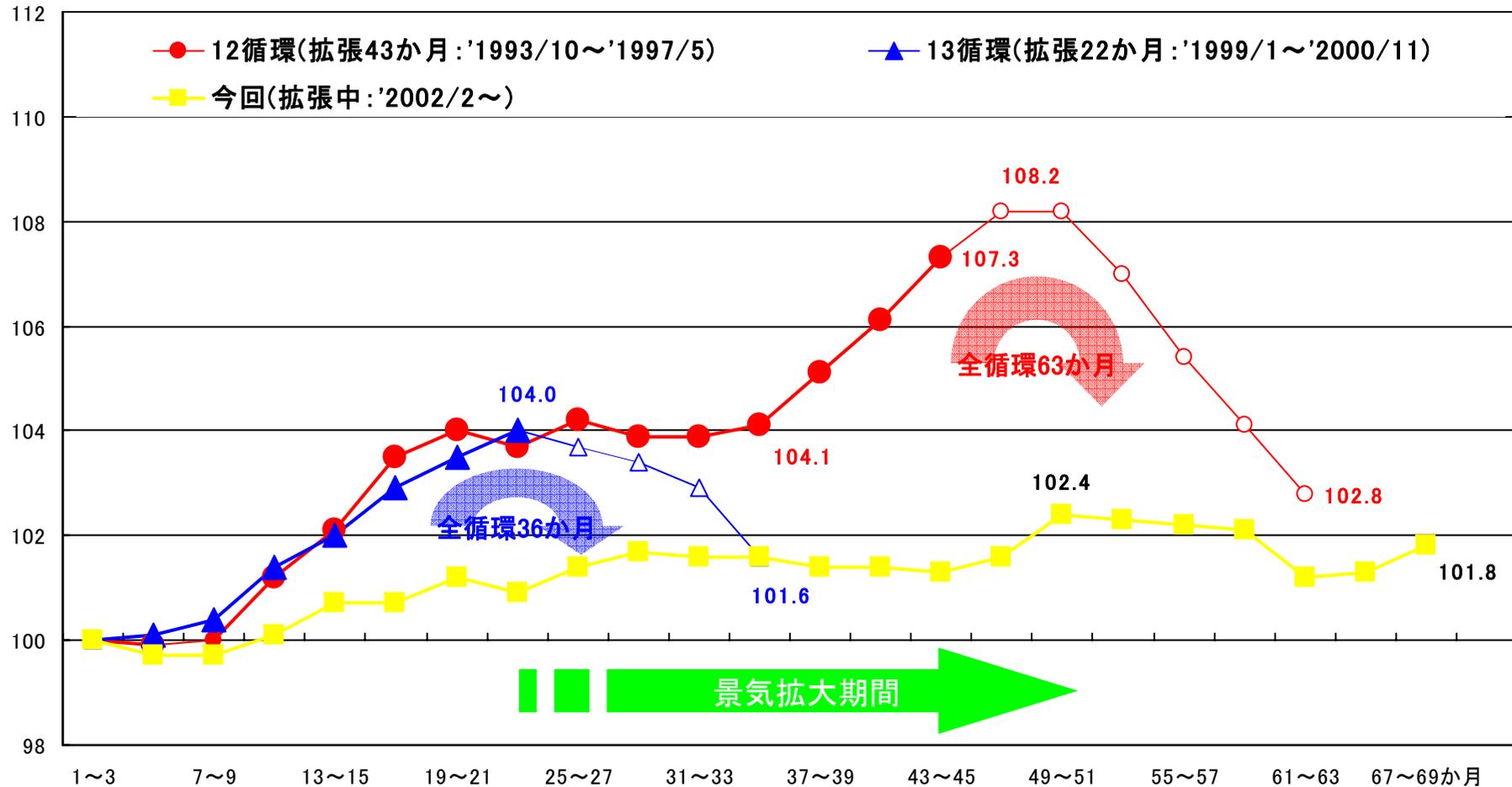
景気拡大期における紙・板紙の内需の動きを過去2回(13循環、12循環)の拡大期と比較してみると、谷から山までの変化率は、拡大期間の長短等もありピーク時の指数は異なるが、回復スピード(24か月まで)は過去2回ともほとんど同じトレンドである。一方、今回は低調に推移しており、回復力に乏しく、緩慢な状況が続いている。なお、全循環における変化率のピークは12循環が110.7、13循環が105.9、今回は103.2である。

(2) 紙



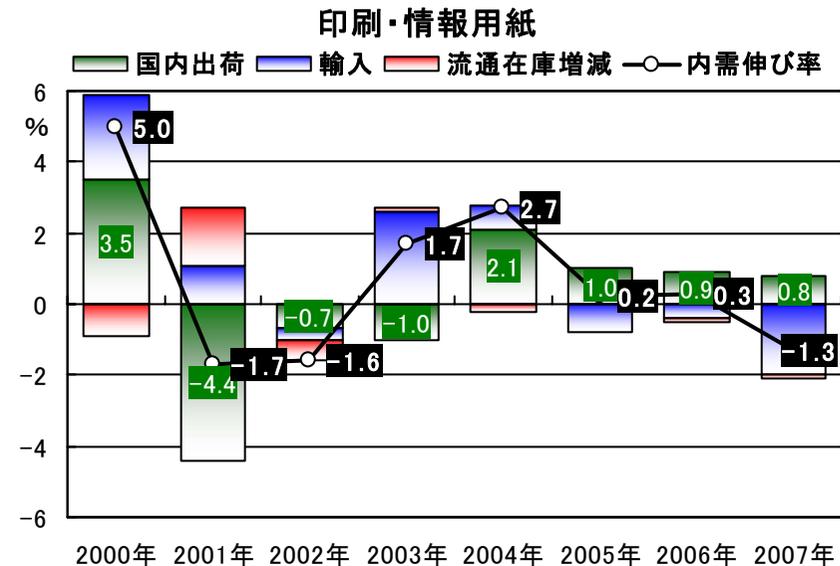
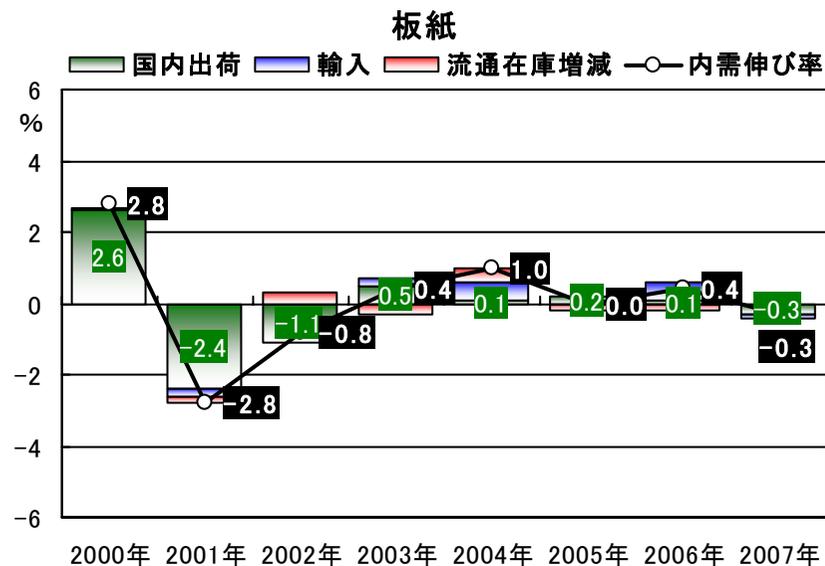
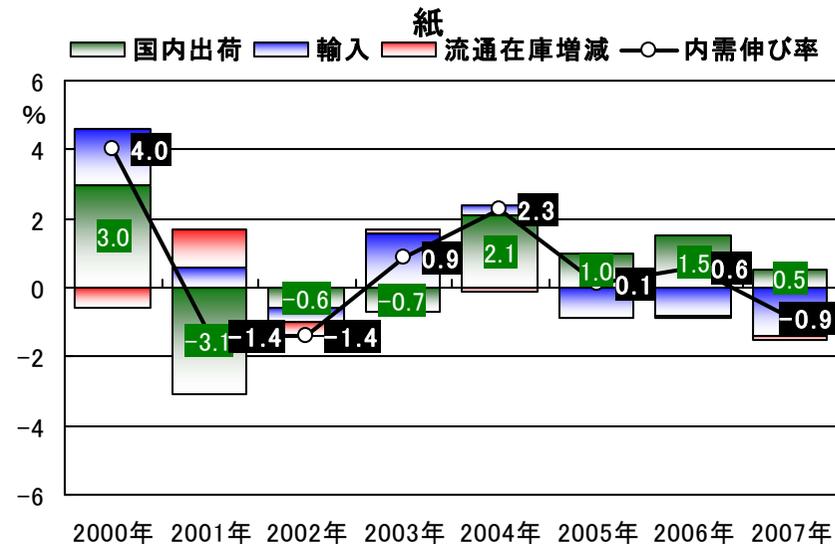
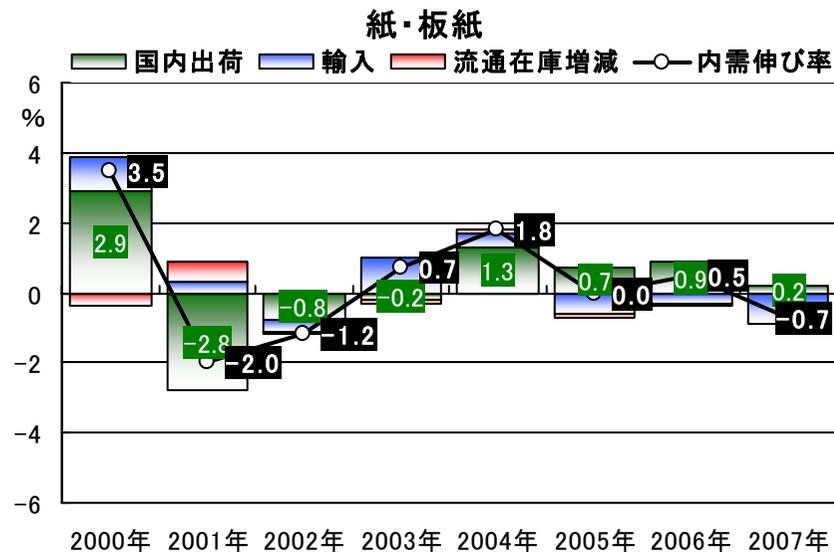
景気拡大期における紙の内需の動きを過去2回(13循環、12循環)の拡大期と比較してみると、谷から山までの変化率は、拡大期間の長短等もありピーク時の指数は異なるが、回復スピード(24か月まで)は過去2回ともほとんど同じトレンドである。一方、今回は低調に推移しており、回復力に乏しく、緩慢な状況が続いている。なお、全循環における変化率のピークは12循環が112.4、13循環が107.4、今回は103.9である。

(3) 板紙



景気拡大期における板紙の内需の動きを過去2回(13循環、12循環)の拡大期と比較してみると、谷から山までの変化率は、拡大期間の長短等もありピーク時の指数は異なるが、回復スピード(24か月まで)は過去2回ともほとんど同じトレンドである。一方、今回は低調に推移しており、回復力に乏しく、緩慢な状況が続いている。なお、全循環における変化率のピークは12循環が108.2、13循環が104、今回は102.4である。

VIII. 参考① サプライ別内需寄与度の推移



参考②

内需の定義

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙に類似した紙製品」としてトイレットペーパーとミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測手法

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算しているが、一部品種については回帰分析等を採用している。なお、参考までにマクロ的にチェックする指標として実質GDP 成長率は1.6%とした。

参考1.経済見通し				
機関別	政府		民間32機関平均値	
	FY2007	FY2008	FY2007	FY2008
実質GDP	1.3	2.0	1.4	2.0
鉱工業生産	2.4	2.2	2.9	2.9

国際機関の暦年見通し		
実質GDP	CY2007	CY2008
OECD	1.9	1.6
IMF	2.0	1.7

参考2.紙・板紙内需の対実質GDP弾性値			
データ期間	紙・板紙合計	紙	板紙
過去10年間(97～07年)	0.24	0.39	0.02
過去5年間(02～07年)	0.26	0.32	0.16